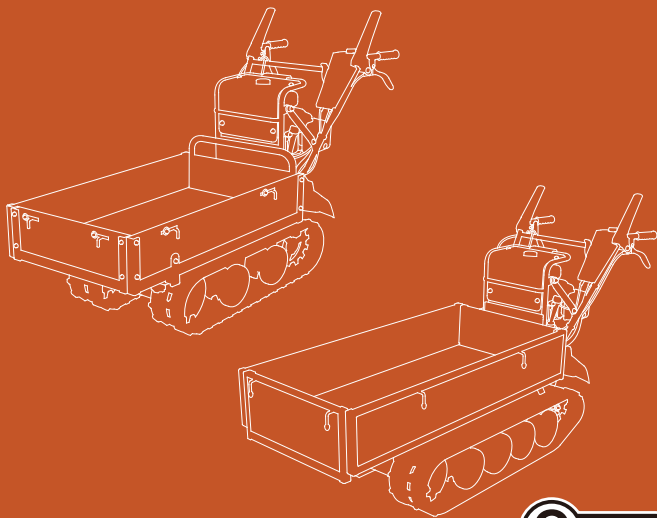


**HONDA**  
汎用製品

# 運搬機 HP350・HP450 取扱説明書



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

# お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

- 一般公道では使用できません。
- 夜間作業はできません。  
(作業灯の装備がされていません)

## 取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・作業するときは、必ず携帯してください。
- ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

# はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた運搬機を安全に正しく操作をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の使用に習熟してください。

## 安全に関する表示について

本書では運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらの安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

### 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

### 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

### 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

## その他の表示

### 取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書はHP450 CJEPタイプを中心に説明してあります。

# 目 次

安全にお使い いただくために	これだけはぜひ守りましょう	4
安全ラベル		8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう		12
エンジン スイッチ		16
燃料コック レバー		16
チョーク ロッド		17
スロットル レバー		17
始動グリップ		17
走行クラッチ レバー		18
変速レバー		18
サイド クラッチ レバー		19
キャリア ロック解除レバー		20
作業前に点検しましょう		21
燃料の点検		21
クローラの点検		23
荷台延長パイプのロック ボルトの点検		24
エンジン オイルの点検		25
エア クリーナ（空気清浄器）の点検		27
エンジンのかけかた		28
エンジンのとめかた		32
運転操作のしかた		34
運転		34
旋回のしかた		36
荷台（キャリア）の使いかた		37
積載のしかた		45
傾斜地での使いかた		47
キャリア ロック解除レバーの使いかた		48
キャリア ロック バーの取扱い		49
定期点検を行いましょ		50
定期点検整備項目		50
点検・整備のしかた		51
エンジン オイルの交換		51
点火プラグの点検・調整・交換		53

---

エア クリーナの清掃・交換 .....	54
クローラの調整 .....	55
走行クラッチ ケーブルの調整 .....	57
ブレーキ ケーブルの調整 .....	58
ブレーキ シューの点検 .....	59
サイド クラッチ ケーブルの調整 .....	60
キャリア ロック ケーブルの調整 .....	61
変速機オイルの点検 .....	62
リダクション オイルの点検 .....	62
各部の給油について .....	63
トラック（車）への積み降ろしのしかた .....	64
長期間使用しないときの手入れ .....	66
故障のときは .....	69
主要諸元 .....	70

## 警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

### ●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法をご理解のうえで操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 過労や病気、薬物の影響で運転操作に支障があるときは本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 頭髮、衣服、手ぬぐいなどが巻き込まれないように、作業に適した服装をしてください。また滑り止めのついた作業に適した靴をはいてください。思わぬ事故を起こすことがあります。
- 日常点検・整備を必ず行い、本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態で操作すると、大けがをすることがあります。点検作業は、通行の妨害にならない平坦で安全な場所で行ってください。防護装置が正しく取付けられていることを確認してください。

点検・整備のために取外された部品は正しく取付けられ、確実に締め付けられていることを確認してください。

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、換気のよい場所で補給してください。また燃料を補給するときや燃料の保管場所では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 本機の操作は2本のハンドルバーをしっかりと握り、本機の後方に立って操作をしてください。荷台の上に乗ったままの操作は絶対にしないでください。転落などにより、けがをするおそれがあります。

## 警告

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。また本機の改造は絶対にしないでください。適正な機能を発揮しなくなり、思わぬ事故を招くおそれがあります。
- 荷台に人を乗せて乗り物代わりの使用は絶対にしないでください。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機の操作をさせないでください。

特に子供には絶対にさわらせないでください。

- 本機を他人に貸し出す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

## ● 荷物の積載

- 過積載は絶対にしないでください。積載の量、方法を必ず守って使用してください。「積載のしかた」(45頁参照)
- 荷台に荷物を積載する場合は荷崩れしないように、しっかりとロープで固定してください。
- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したり、運転操作に支障をきたします。
- 高く荷物を積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり転倒するおそれがあります。

## ● 作業中

- 作業中は周囲の安全に十分注意してください。
- 本機と接触してけがをすることがないように、作業範囲内に人やペットを近寄せないでください。特に子供には注意が必要です。人やペットが近づいて来たときは、エンジンを止めて作業を中断してください。事故を起こすおそれがあります。
- 運転中は、クローラ部に手や足を近づけないでください。またフェンダやシフト パターン プレートに足をかけないでください。

## 警告

- 後進で使用するときは滑ったり、つまずいたりする場合がありますので足元、荷崩れ、後方視界などに十分注意してください。
- 視界が悪いときは障害物にぶつかる場合がありますので本機を使用しないでください。
- 作業場への出入り、溝や畦の横断、砂地での使用、軟弱地の通過、傾斜地での発進、停止、旋回などは転倒するおそれがありますので注意して走行してください。
- 傾斜地で駐車しないでください。駐車をするときは平坦な場所でエンジンを止めて、変速レバーを中立にし、走行クラッチレバーを"停車"にしてください。
- 急傾斜地での旋回および変速は、転倒や転落するおそれがありますので避けてください。
- 軟弱な道の走行は路肩が崩れ、転倒、転落するおそれがありますので避けてください。
- 本機の転倒を避けるため、平地または15度以下の傾斜地で使用してください。
- 作業中に異常を感じたら、平坦な場所でエンジンを停止させてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチを"停止"にして点火プラグキャップをプラグから取外し、変速レバーを"中立"にして、走行クラッチレバーを"停車"にしてから点検してください。
- 運転中はエンジンやマフラ（消音器）などは非常に熱くなっています。エンジン停止後もしばらくの間は熱いままになっています。やけどのおそれがありますので、エンジンやマフラなどに触れないように注意してください。
- クローラの上面が水に浸かるような深い水田などでは使用しないでください。



## 警告

### ●作業が終わったら

- 次の作業に備えて本機の点検・整備を実施してください。
- やけどの原因とならないように、エンジンを停止させ、エンジンやマフラなどが冷えてから各部の清掃をしてください。
- 本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディカバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- トラック（車）への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下した場合にけがをするおそれがあります。

## ●安全ラベル

本機を安全にご使用いただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

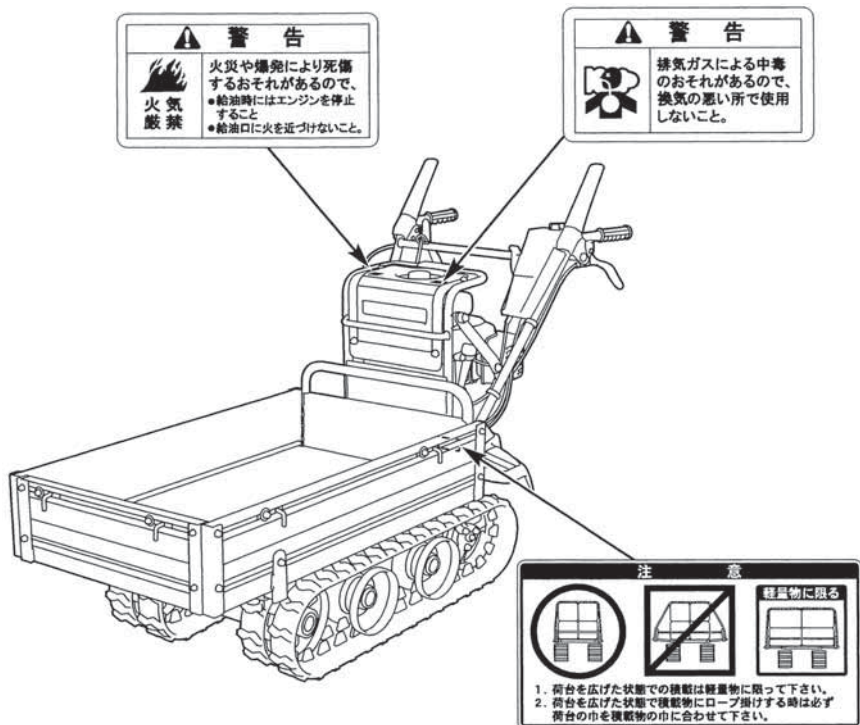
ラベルは、はっきりと見えるようにきれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失で読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。

また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。

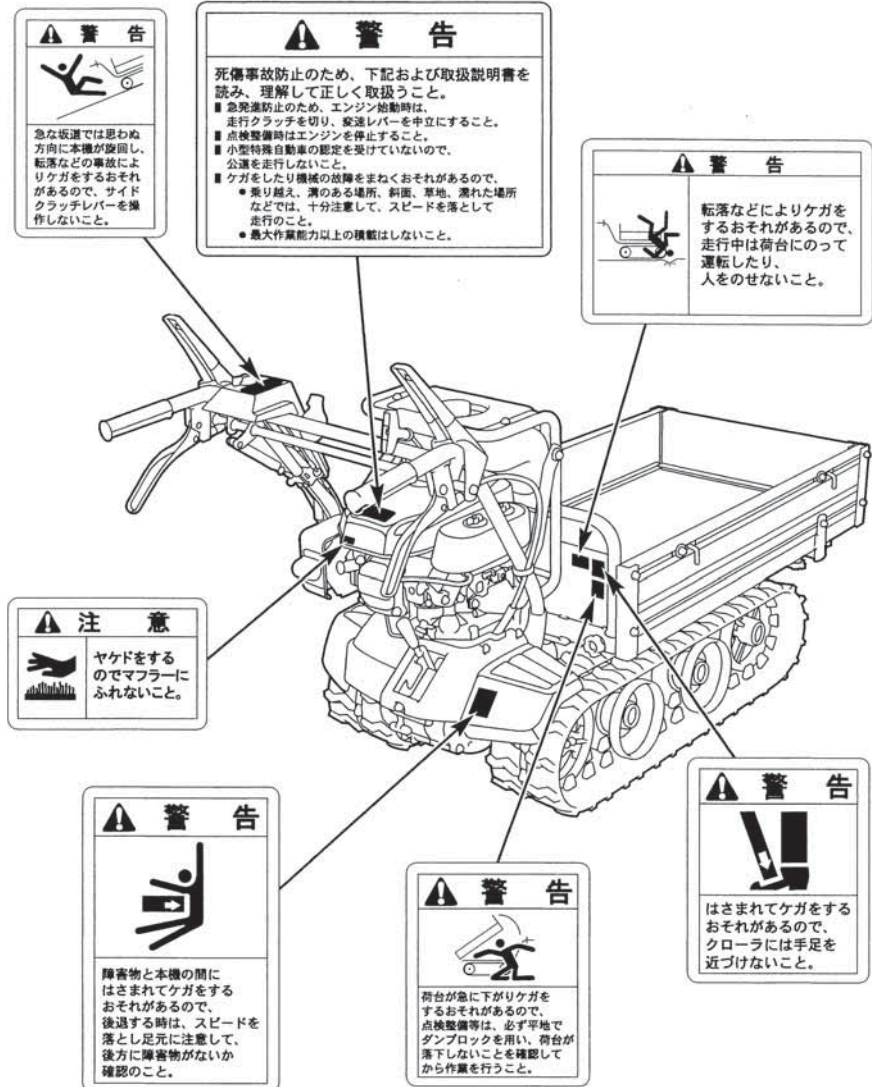
安全ラベルはお買いあげいただいた販売店にご注文してください。

[HP350 (BJP、CJP、CJEPタイプ)]



(BJP、CJEPタイプのみ)

# [HP350 (BJP、CJP、CJEPタイプ)]



**警告**




急な坂道では思わぬ方向に本機が後倒し、転落などの事故によりケガをするおそれがあるので、サイドクラッチレバーを操作しないこと。

**警告**

死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

- 急発進防止のため、エンジン始動時は、走行クラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。
- 小型特殊自動車の認定を受けていないので、公道を走行しないこと。
- ケガをしたり機械の故障をまねくおそれがあるので、
  - 乗り越し、溝のある場所、斜面、草地、濡れた場所などでは、十分注意して、スピードを落として走行のこと。
  - 最大作業能力以上の積載はしないこと。

**警告**



転落などによりケガをするおそれがあるので、走行中は荷台にのって運転したり、人をのせないこと。

**注意**



ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

**警告**



障害物と本機の間にはさまれてケガをするおそれがあるので、後退する時は、スピードを落とし足元に注意して、後方に障害物がないか確認のこと。

**警告**



荷台が急に下がリケガをするおそれがあるので、点検整備等は、必ず平地でダンブロックを用い、荷台が落下しないことを確認してから作業を行うこと。

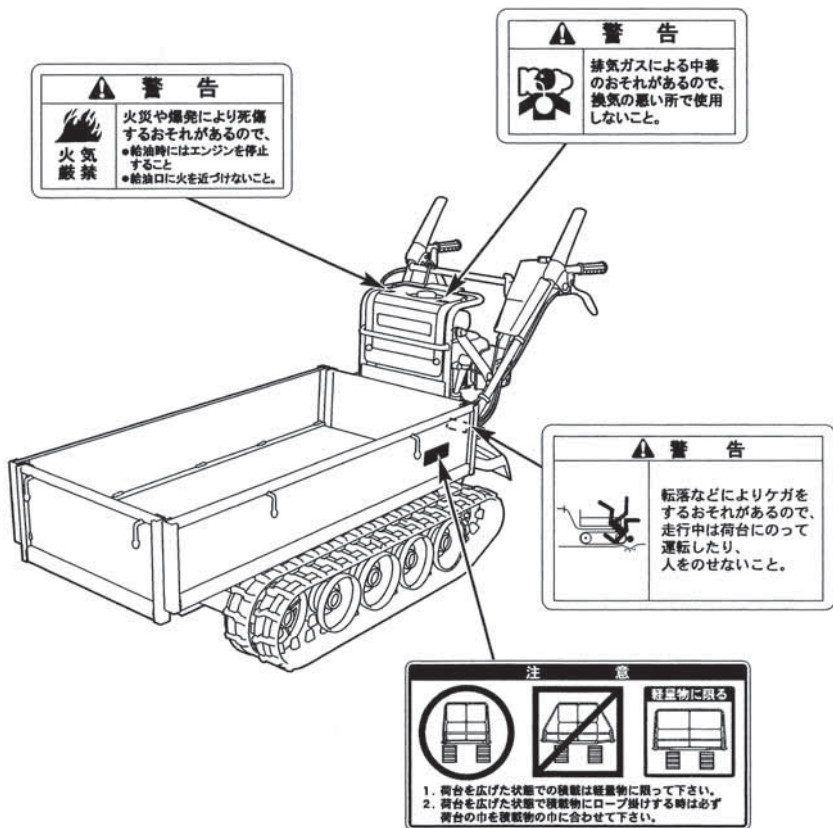
**警告**



はさまれてケガをするおそれがあるので、クローラには手足を近づけないこと。

(BJP、CJEPタイプのみ)

[HP450 (CJEPタイプ)]



# [HP450 (CJEPタイプ)]

**警告**

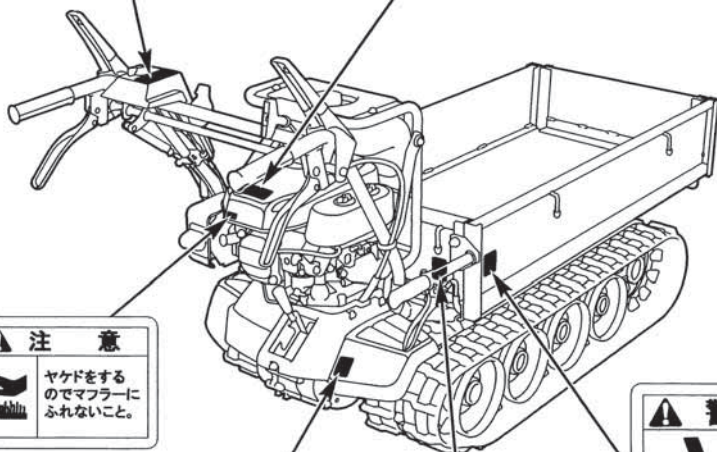


急な坂道では思わぬ方向に本機が旋回し、転落などの事故によりケガをするおそれがあるので、サイドクラッチレバーを操作しないこと。

**警告**

死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

- 急発進防止のため、エンジン始動時は、走行クラッチを切り、駆動レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。
- 小型特殊自動車の認定を受けていないので、公道を走行しないこと。
- ケガをしたり機械の故障をまねくおそれがあるので、
  - 乗り換え、溝のある場所、斜面、草地、濡れた場所などでは、十分注意して、スピードを落として走行のこと。
  - 最大作業能力以上の積載はしないこと。



**注意**



ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

**警告**



はさまれてケガをするおそれがあるので、クローラには手足を近づけないこと。

**警告**



障害物と本機の間にはさまれてケガをするおそれがあるので、後退する時は、スピードを落とし足元に注意して、後方に障害物がないか確認のこと。

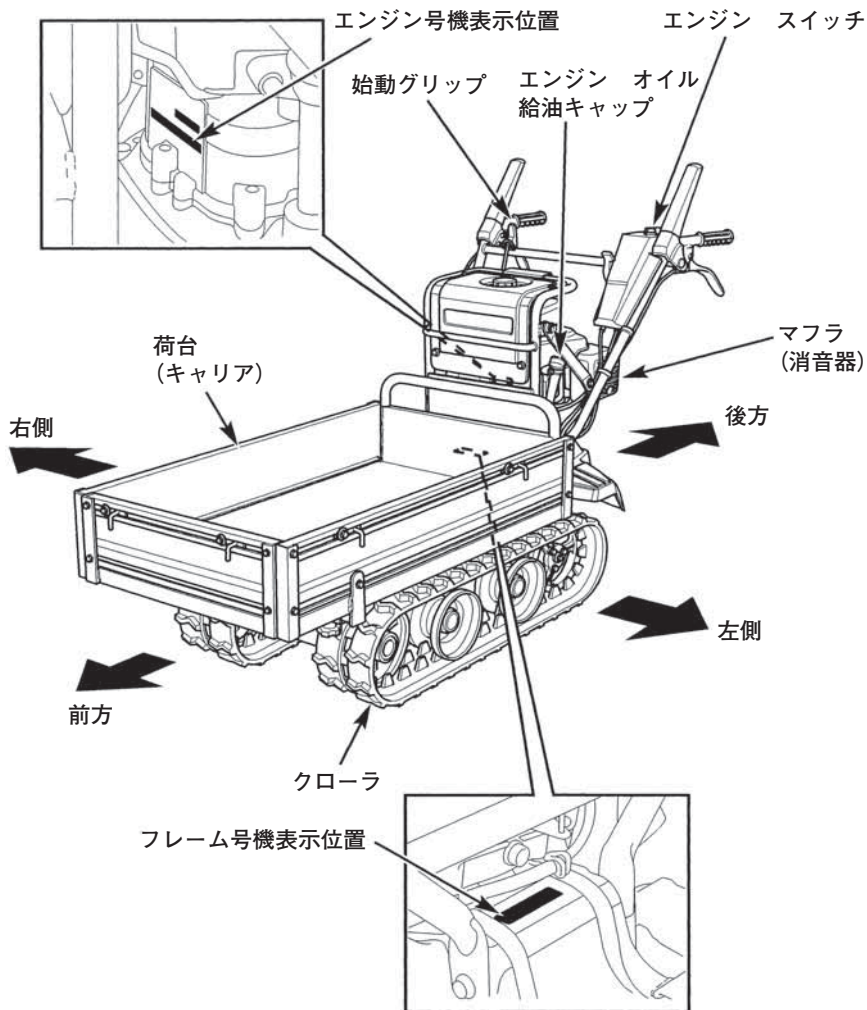
**警告**

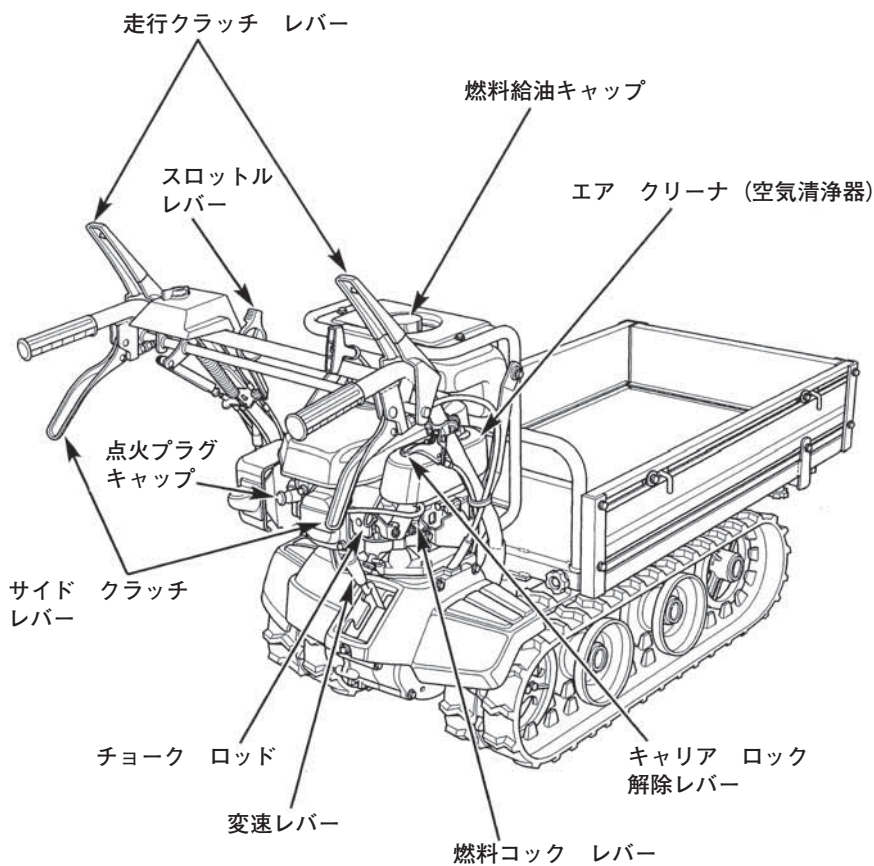


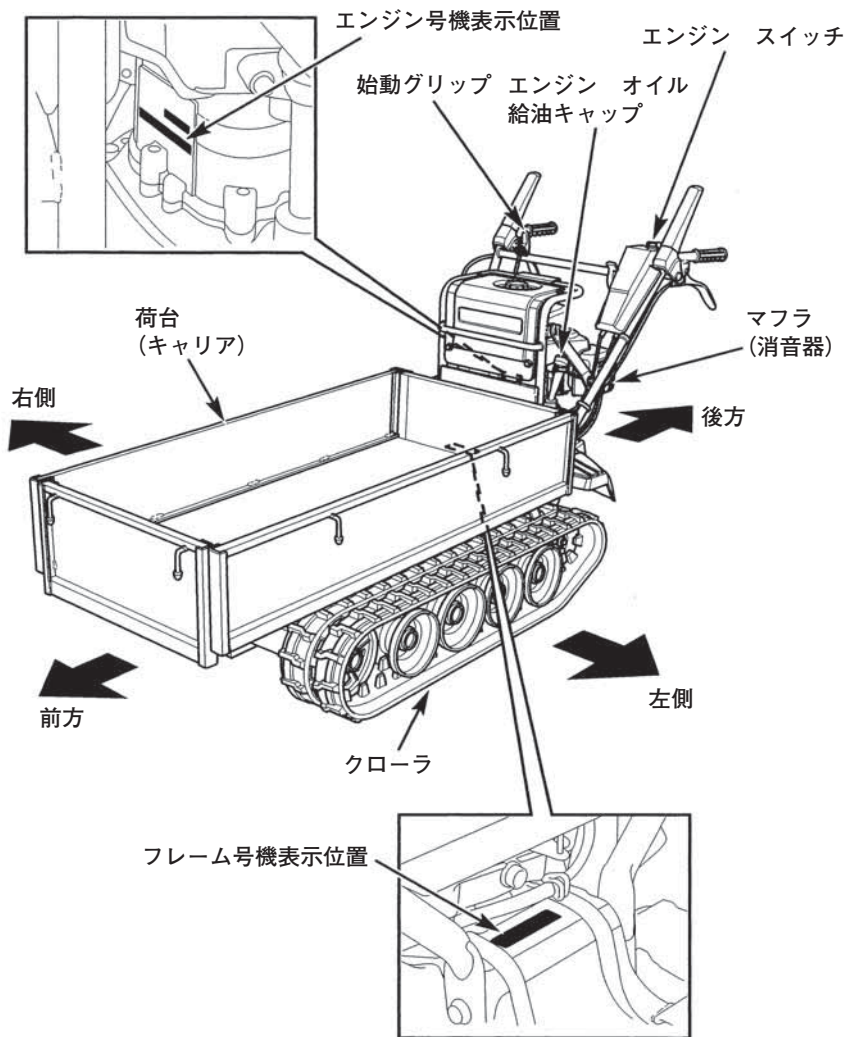
荷台が急に下がりケガをするおそれがあるので、点検整備時は、必ず平地でダンプロックを用い、荷台が落下しないことを確認してから作業を行うこと。

# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう

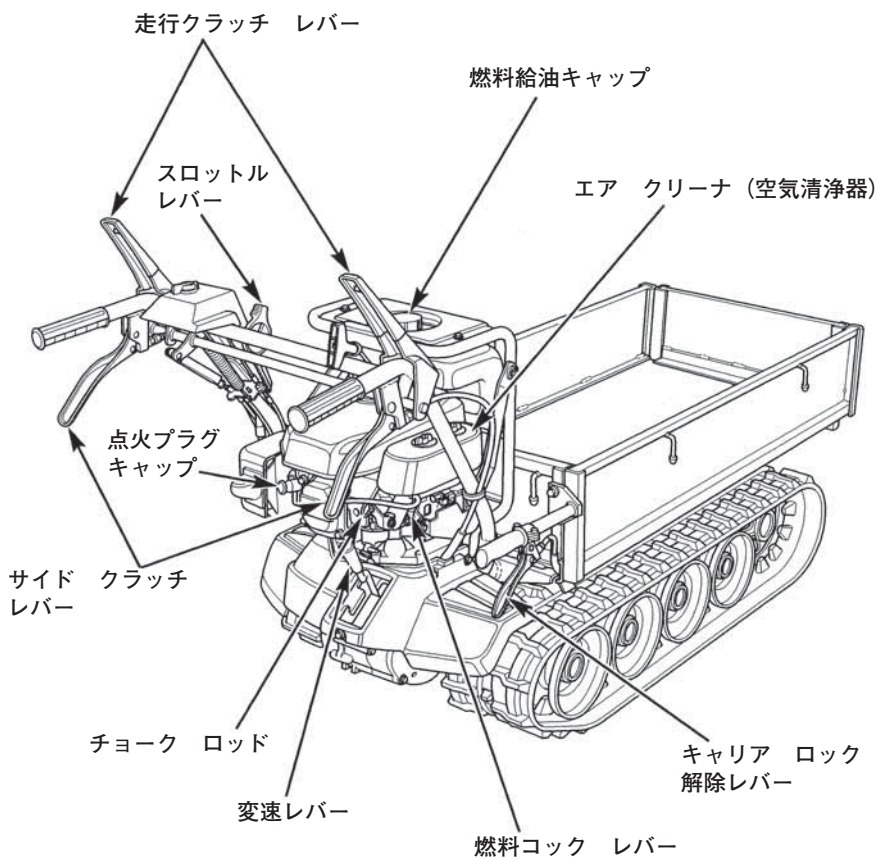
[HP350]





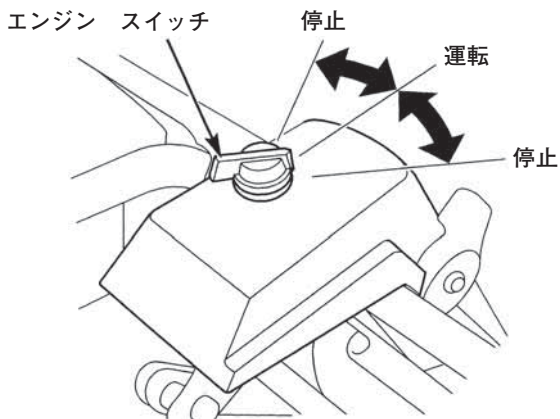






## エンジン スイッチ

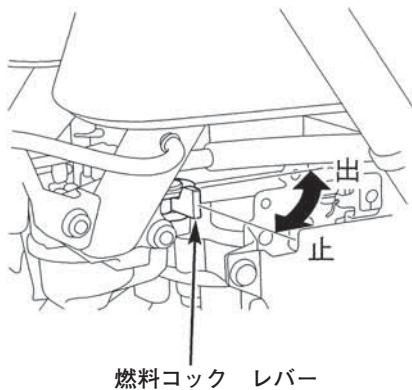
エンジンを運転、停止をするときに操作します。



## 燃料コック レバー

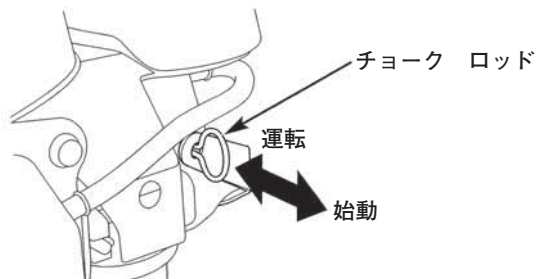
燃料タンクからキャブレター（気化器）までの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に " 止 " " 出 " の位置に合わせます。



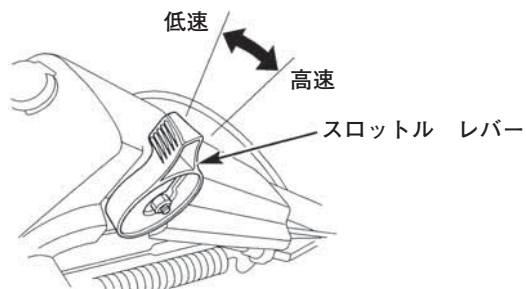
## チョーク ロッド

エンジンが冷えているときに操作します。



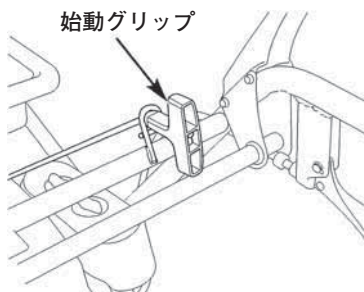
## スロットル レバー

エンジン回転を調整するときに操作します。通常は " 高速 " の位置でご使用ください。



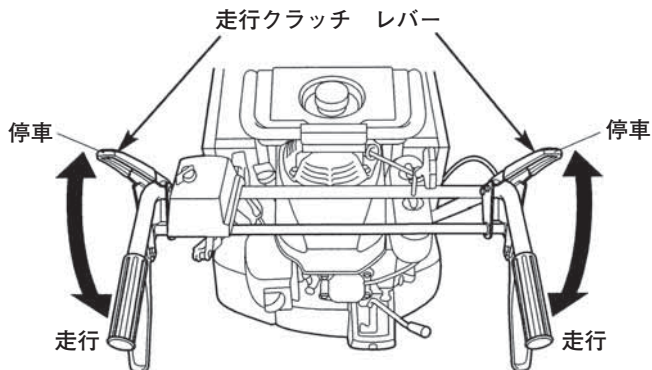
## 始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



## 走行クラッチ レバー

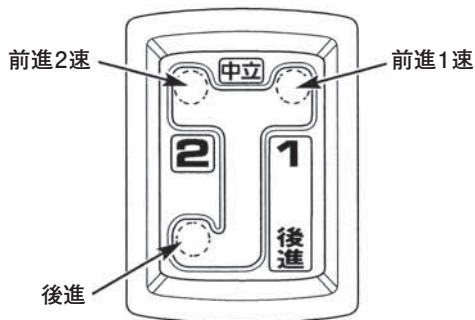
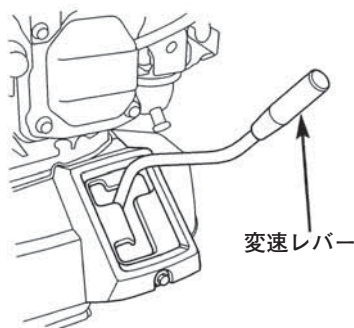
走行クラッチ レバーを握ると走行し、放すとクラッチが切れブレーキが作動して止まります。



## 変速レバー

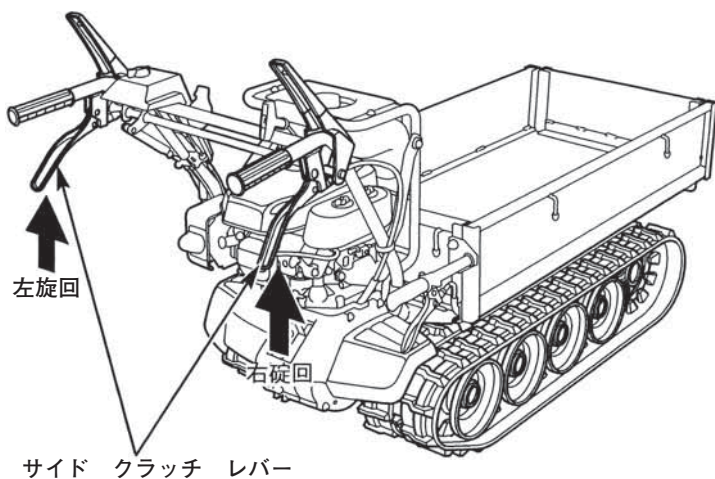
本機を前進、後進するために操作します。

前進2段、後進1段で変速できます。



## サイド クラッチ レバー

方向を変えるときに使います。レバーを握ると握った方向に曲がります。



## キャリア ロック解除レバー

荷台（キャリア）のロックを解除するときに操作します。

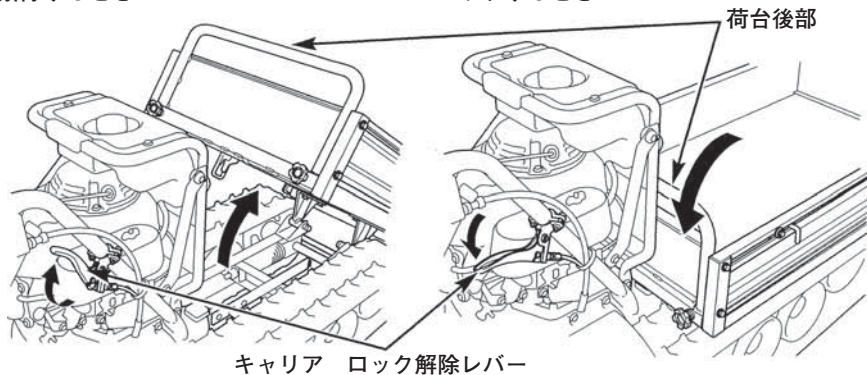
### [HP350]

解除するとき …… レバーを握り荷台後部を持ち上げます。

ロックするとき …… 荷台後部のみ持ってロックするまで下げます。

解除するとき

ロックするとき



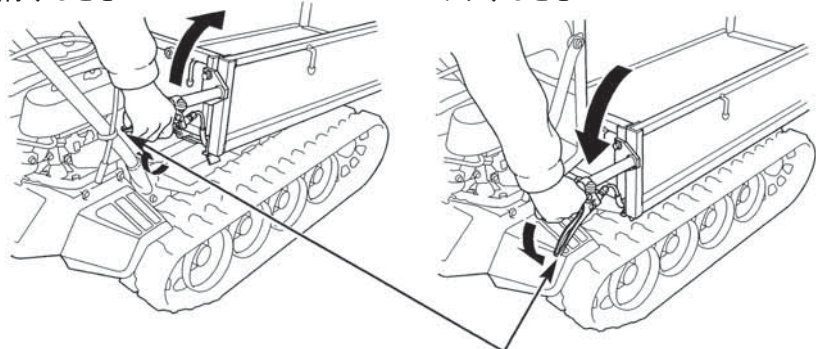
### [HP450]

解除するとき …… レバーを握りハンドルを持ち上げます。

ロックするとき …… ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。

解除するとき

ロックするとき



## ⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にしエンジンを止めて行ってください。

不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと事故を引き起こすおそれがあります。

## 燃料の点検

### ⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死傷事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気のよい場所で補給してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

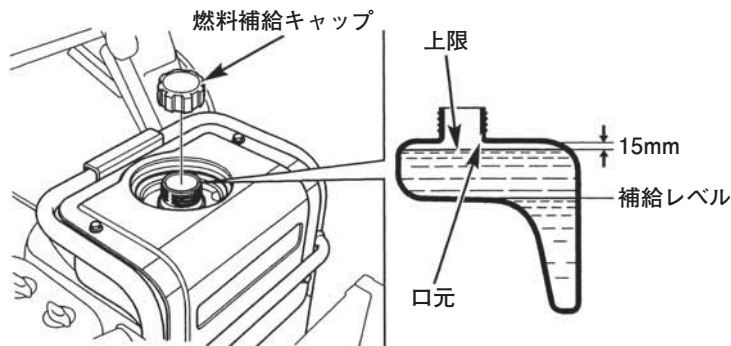
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。  
燃料をふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり、引火して火災を引き起こすおそれがあります。

## 点検

注入口の口元の下15mmの位置が給油の上限です。  
燃料があるか外から見て点検してください。  
少ない場合は上限を超えないよう補給してください。



運転中に燃料がタンクの補給レベルに近づいていましたら、エンジンを止め、燃料を補給してください。

## 補給

燃料補給キャップを外し、注入口の上限を超えないよう補給してください。  
使用燃料：無鉛レギュラー ガソリン

補給後、キャップを確実に締付けてください。

●本機に貼られているラベルに従ってください。

### 取扱いのポイント

- ・必ず無鉛レギュラー ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ・ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。



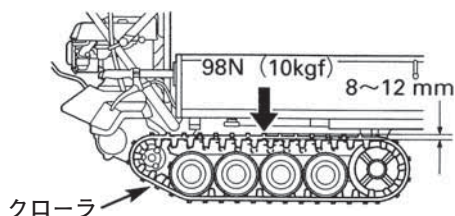
## クローラの点検

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。  
クローラの張りが正常でないで脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

### 点検のしかた

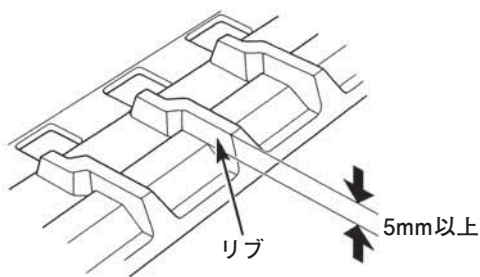
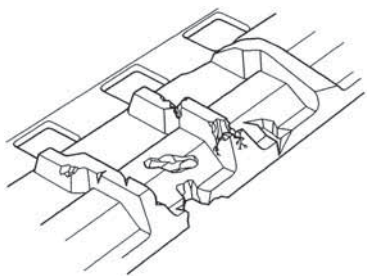
1. クローラの中央部を強く（約98N（10kgf））押したとき、たるみが下記寸法になっているか点検してください。（調整方法は55頁参照）

たるみ量：8～12mm



2. クローラに著しい亀裂、損傷、摩擦がないか点検してください。
3. クローラのリブの高さを点検してください。

リブの高さ：5mm以上



4. クローラに著しい亀裂、損傷、摩擦があるときは、お買いあげ販売店にお申しつけください。

### ⚠ 警告

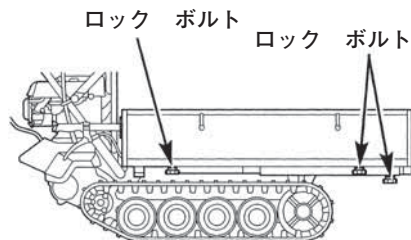
走行中にクローラが外れたり切れたりした場合、荷崩れや転倒などの事故につながります。

走行不能になると同時にブレーキが効かなくなり重大事故になる場合があります。

## 荷台延長パイプのロック ボルトの点検

荷台延長パイプのロック ボルトがゆるんでいないか点検してください。

もしゆるんでいる場合は、手で確実に増し締めしてください。



### ⚠ 注意

ロック ボルトの締付けがゆるいと運搬中に荷台サイド プレートや荷台フロント プレートが外れ、荷崩れやけがをするおそれがあります。

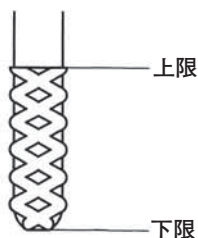
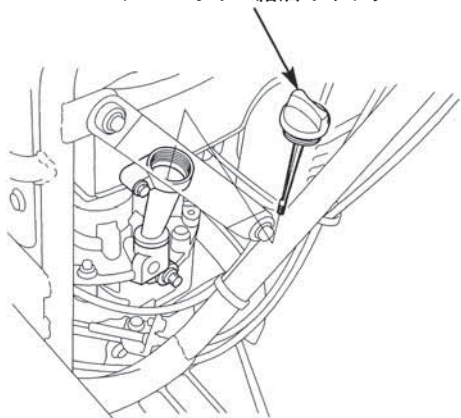
- 荷崩れや転倒事故を防ぐため、日常点検を実施してください。

## エンジン オイルの点検

### 点検

本機を水平な場所に止めオイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずにキャップを差込み、給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。油面が下限に近いときは、上限までオイルを補給してください。オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は51～52頁参照）

エンジン オイル給油キャップ

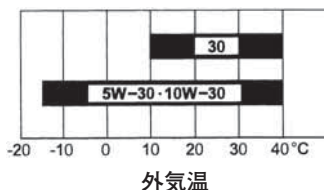


### 補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給してください。

《推奨オイル》 4サイクル ガソリン エンジン オイル  
Honda純正ウルトラU汎用 (SAE 10W-30)  
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30エンジン  
オイルをご使用ください。

エンジン オイルは外気温に応じた粘度  
のものを表にもとづきお使いください。



#### 取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

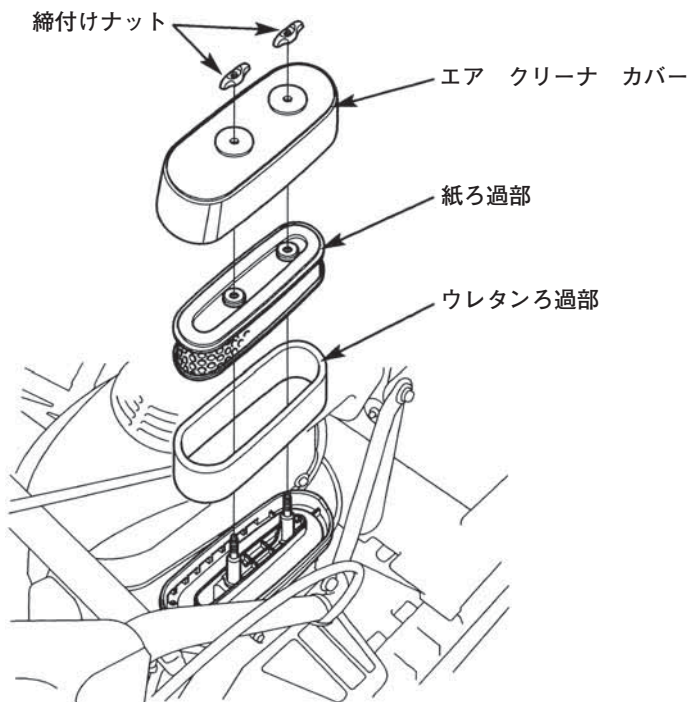
## エア クリーナ（空気清浄器）の点検

### 点検

1. 締付けナットを外し、エア クリーナ カバーを取外します。
2. ろ過部（ウレタン、紙）の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃・交換を行ってください。（54頁参照）

### 取扱いのポイント

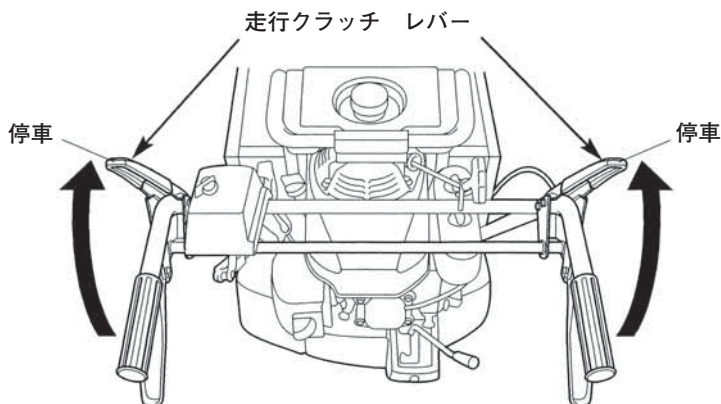
- エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア クリーナ カバーやろ過部（ウレタン）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。



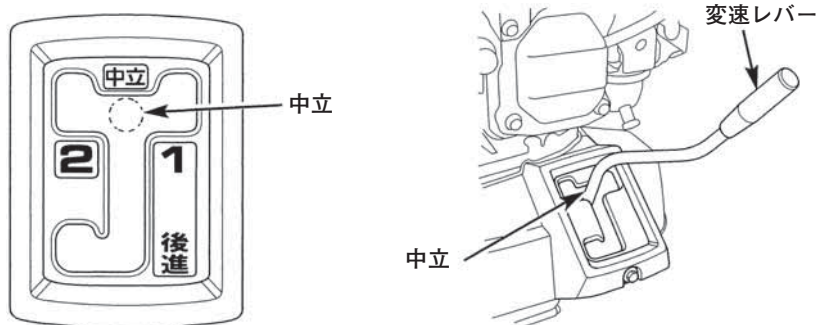
## ⚠ 警告

- 屋内や換気の悪い所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、必ず周囲の人や物の安全を確認してください。走行クラッチ レバーが " 停車 " の位置で、変速レバーが " 中立 " の位置になっていることを確認してください。本機が不意に動きだし、けがをすることがあります。

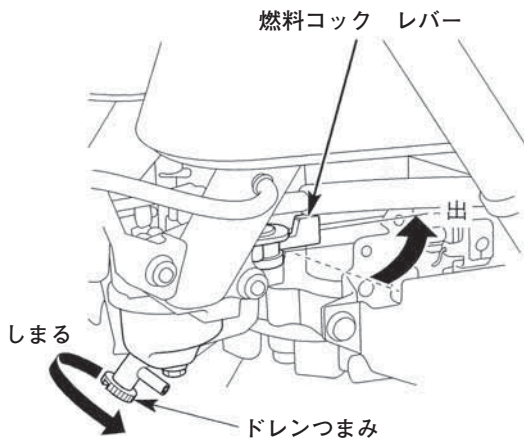
1. 走行クラッチ レバーを放し " 停車 " の位置にします。



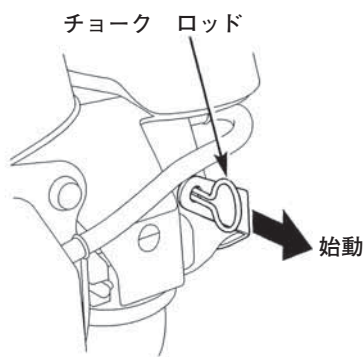
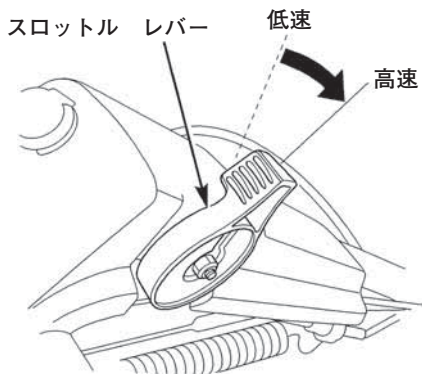
2. 変速レバーを " 中立 " の位置にします。



3. ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。  
燃料コック レバーを "出" の位置に合わせてください。

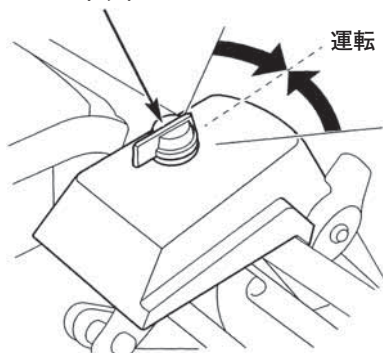


4. スロットル レバーを "高速" の位置にし、チョーク ロッドを "始動" の位置まで引いてください。  
エンジンが暖まっているときは "低速" の位置でチョーク操作なしで始動できます。

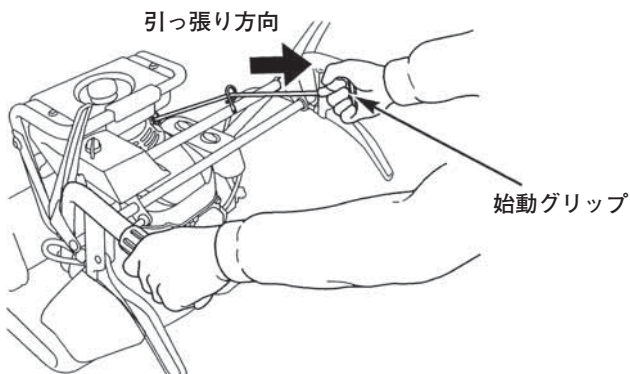


5. エンジン スイッチを " 運転 " の位置に合わせてください。

エンジン スイッチ



6. 始動グリップを静かに引き重くなる場所で止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



#### 取扱いのポイント

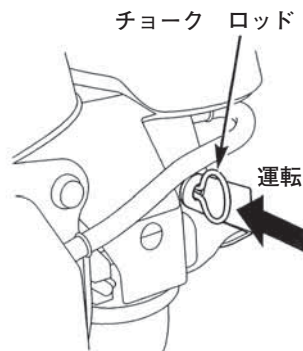
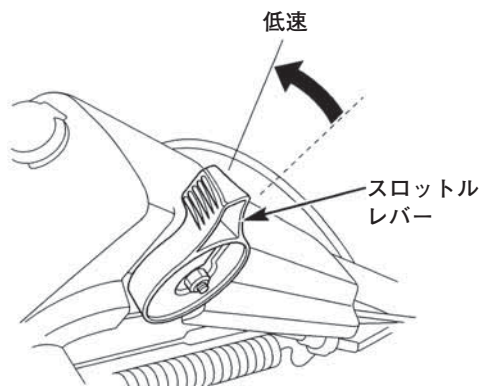
始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップやまわりの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。



7. 2～3分暖機運転を行います。

エンジンの回転が安定したら、チョーク ロッドを戻しスロットル レバーを "**低速**" の位置にしてください。

- 暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命をのばします。

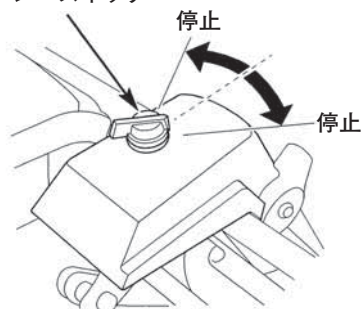
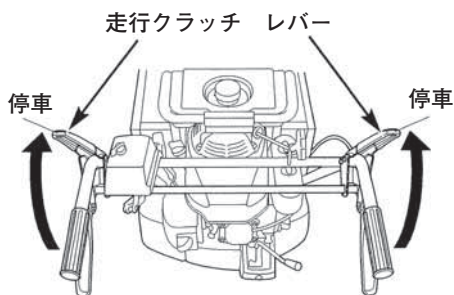


## 緊急停止の場合

走行クラッチ レバーを放し、" 停車 " の位置にすると、本機が停止します。

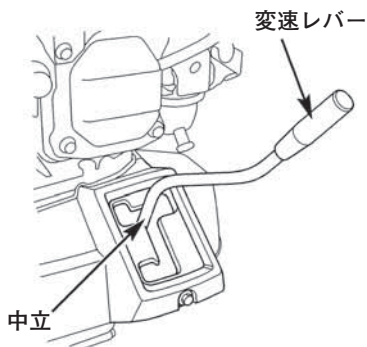
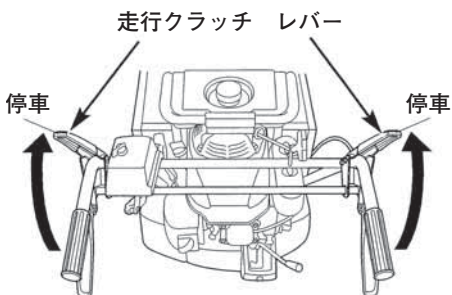
エンジン スイッチを " 停止 " の位置にしてエンジンを停止します。

エンジン スイッチ

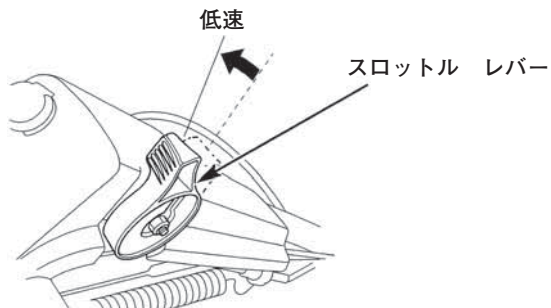


## 通常停止の場合

1. 走行クラッチ レバーを放し、" 停車 " の位置にし、変速レバーを " 中立 " の位置にしてください。

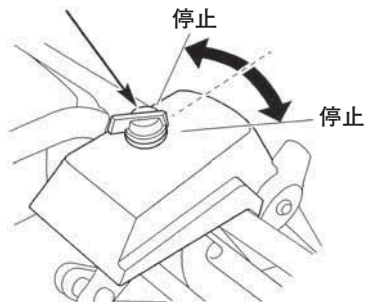


2. スロットル レバーを " 低速 " の位置に合わせてください。



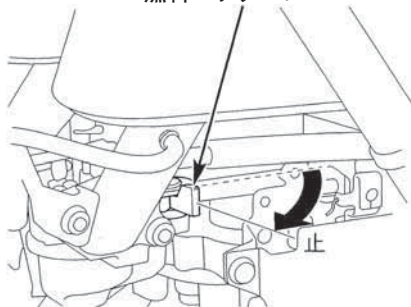
3. エンジン スイッチを " 停止 " の位置に合わせてください。

エンジン スイッチ



4. 燃料コック レバーを " 止 " の位置に合わせてください。

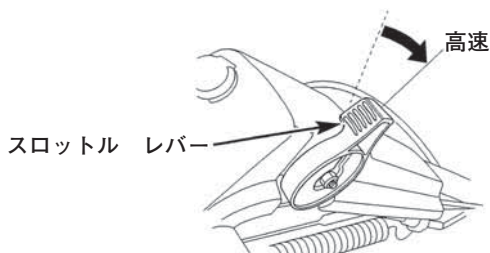
燃料コック レバー



## 運転

「エンジンのかけかた」（28頁参照）に従ってエンジンを始動してください。

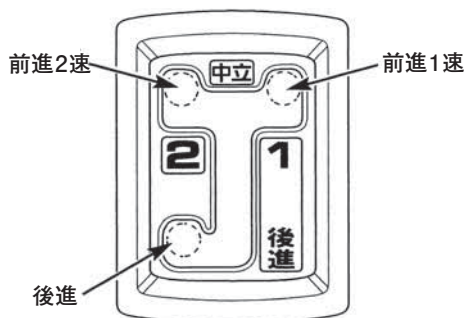
1. スロットル レバーを " 高速 " の位置に合わせてください。



### ⚠ 警告

急な坂道を下るときはスロットル レバーを " 低速 " の位置にし、変速レバーを1速にして走行してください。

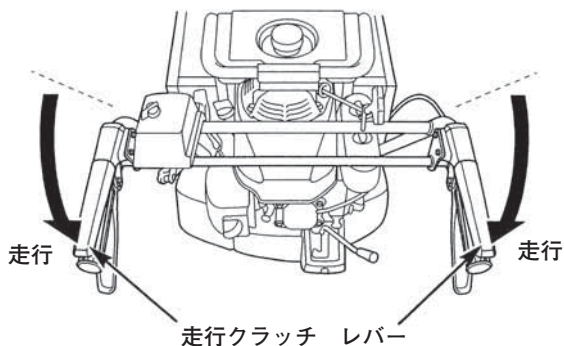
2. 作業に合わせて変速位置を選んでください。



### 取扱いのポイント

走行中に変速操作は行なわないでください。走行クラッチ レバーを放し " 停車 " の位置にして本機が停車してから変速操作をしてください。走行中の変速は故障の原因になります。

3. 走行クラッチ レバーを握ってください。走行を始めます。



- 走行クラッチ レバーをゆっくりと握ると、エンジンが停止することがありますのですみやかに操作してください。

**⚠ 警告**

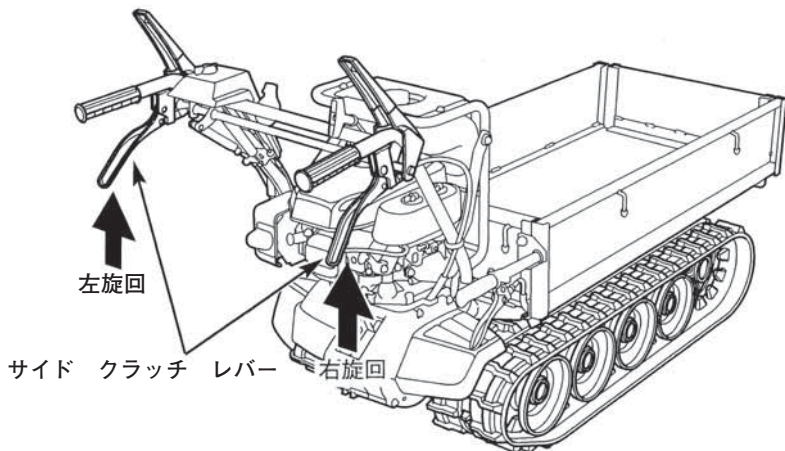
傾斜地でエンジンが停止したときは、すぐに走行クラッチ レバーを放し " 停車 " にしてブレーキをかけてください。

本機が動き出す場合があります。

## 旋回のしかた

旋回しようとする方向のサイド クラッチ レバーを握ると旋回します。

サイド クラッチ レバーを操作する場合は、レバーを確実に握ってください。



### ⚠ 警告

旋回するときは荷物が安定していることを確認してください。  
急傾斜地では旋回しないでください。転倒や転落の原因になります。

## 荷台（キャリア）の使いかた

45～46頁の重量制限を守ってください。

### ⚠ 警告

荷物を積載するときは、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。エンジンやフレームに悪影響をあたえるばかりでなく、荷くずれなどを起こす原因になります。

## ロープ フックの使いかた

荷物を積載するときは、必ず荷くずれないようにしっかりとロープでロープ フックを使い固定してください。

### ⚠ 警告

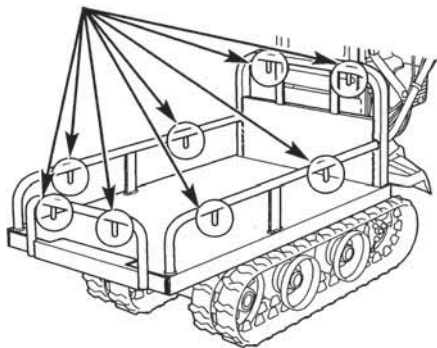
転倒や転落事故防止のために次の指示に従ってください。

- 本機を動かす前に、荷台の後部を上下に動かして、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。
- 重心が高くなるように、重い荷物が下になるような積み方をしてください。
- 積み荷が荷台からはみ出たり、視界を妨げるような積み方はしないでください。
- 柔らかい地面、でこぼこのある地面を通過するときは速度を下げてください。
- 平地または15度以下の傾斜地で使用してください。
- 荷台を広げて使用する場合は、必ず軽量物で平地に限って使用してください。

### 取扱いのポイント

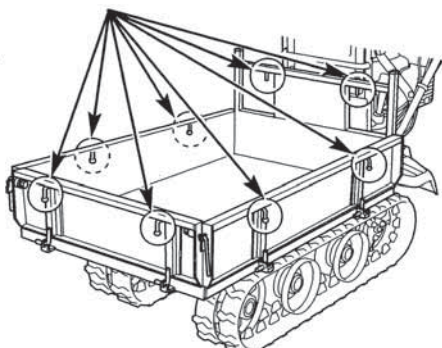
ロープ フック以外にはロープをかけないでください。

ロープ フック位置



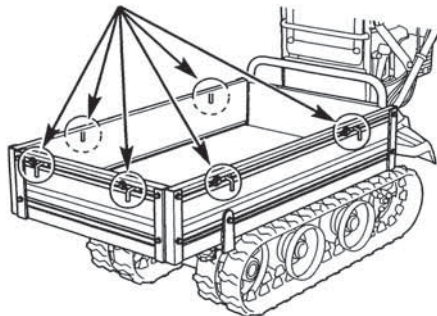
(パイプ荷台タイプ)  
[HP350 (CJPタイプ)]

ロープ フック位置



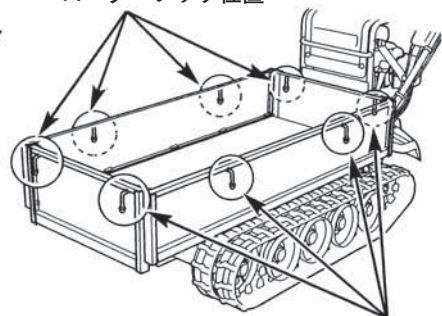
(三方開き荷台タイプ)  
[HP350 (BJPタイプ)]

ロープ フック位置



(ボックス荷台タイプ)  
[HP350 (CJEPタイプ)]

ロープ フック位置



ロープ フック位置

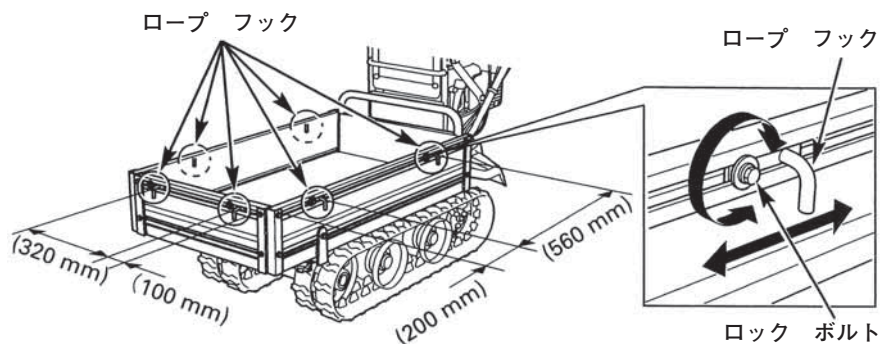
(ボックス荷台タイプ)  
[HP450 (CJEPタイプ)]



## ロープ フックの取扱い [HP350 (ボックス荷台タイプ)]

ロープ フックはロック ボルトをゆるめると左右に移動することができます。

バランス良く配置してロック ボルトで確実に固定してください。



( ) 寸法は、工場出荷時のセット寸法です。

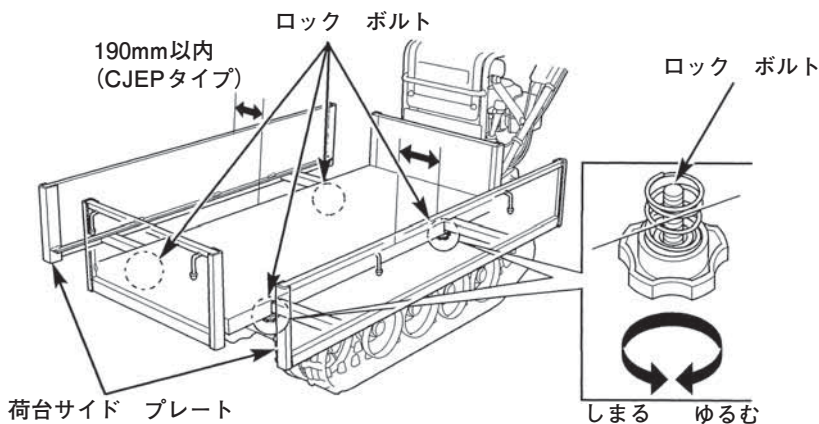
## 荷台サイド プレートの使いかた (ボックス荷台タイプ)

荷台サイド プレートは左右190mmずつ広げることができますが通常の場合は標準の位置で使用してください。

- 荷物にロープをかけるときは荷物を荷台サイド プレートに軽く当たるようにセットしてください。

## 荷台サイド プレートの取扱い (ボックス荷台タイプ)

左右のロック ボルト4本をゆるめ荷台サイド プレートを横方向に積載物に合わせて、左右均等 (190mm以内) に引き出してください。引き出し後、確実にロック ボルトを締め付けてください。

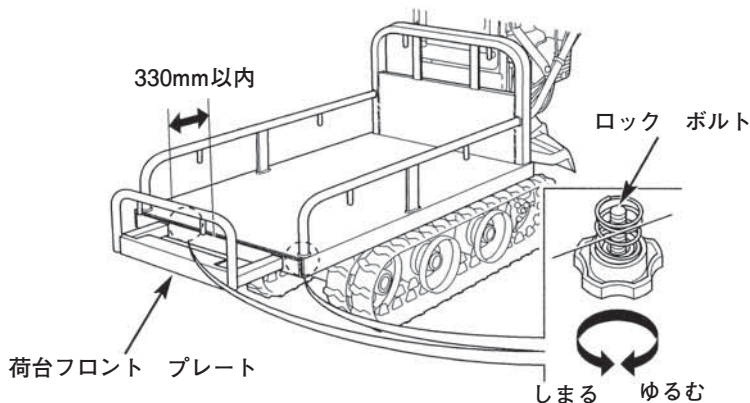


### ⚠ 警告

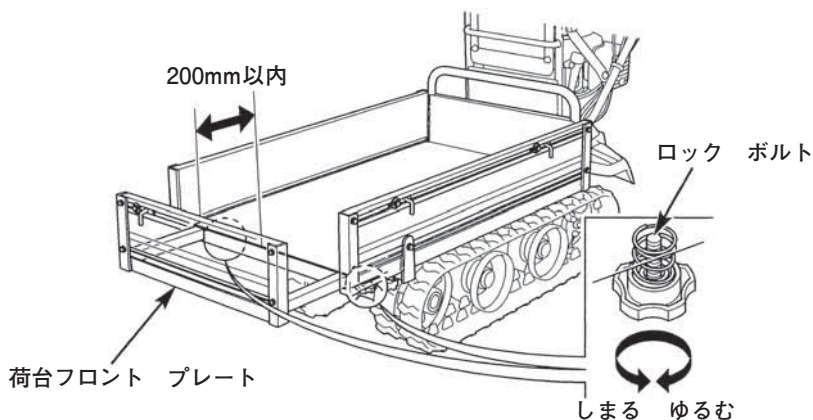
- 急傾斜地では荷台サイド プレートを広げて使用しないでください。荷台サイド プレートを広げるのは、軽量物を運搬するときだけにしてください。
- 荷台サイド プレートを広げるときは、左右同じ長さに出して、荷物は左右均等に載せてください。限度以上に荷台サイド プレートを広げないでください。荷台サイド プレートが外れ荷くずれを起こし、けがをするおそれがあります。

荷台フロント プレートの取扱い (パイプ荷台、ボックス荷台タイプ)  
ロック ボルト2本をゆるめ荷物の長さに合わせて引き出してください (HP350パイプ荷台タイプ：330mm、HP350ボックス荷台タイプ：200mm、HP450ボックス荷台タイプ：460mmまで)。  
引き出し後、確実にロック ボルトを締付けてください。

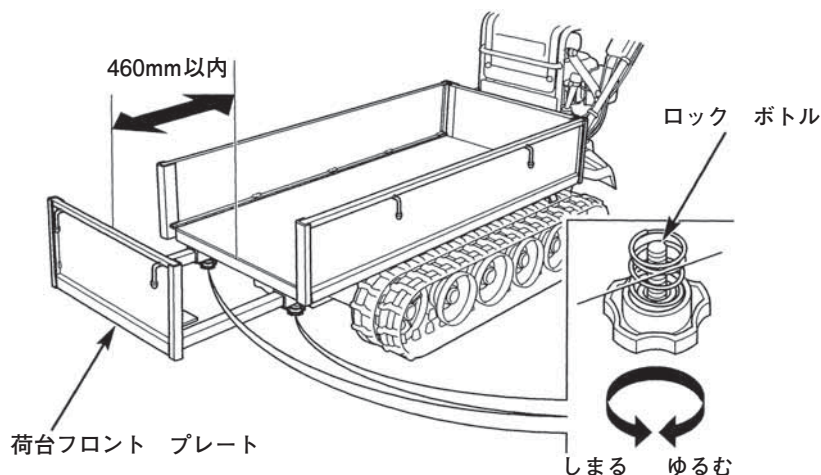
### HP350 (パイプ荷台タイプ)



### HP350 (ボックス荷台タイプ)



## HP450 (ボックス荷台タイプ)



### ⚠ 警告

急傾斜地では荷台フロント プレートを引き出して使用しないでください。

荷台フロント プレートを引き出して使用する場合は、軽量物を運搬するときだけにしてください。

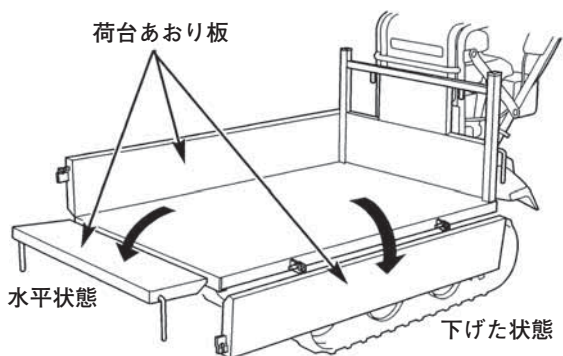
また、荷台フロント プレートを限度以上に引き出さないでください。

荷台フロント プレートが外れて荷くずれを起こしけがをするおそれがあります。

## 荷台あおり板の使いかた（三方開き荷台タイプ）

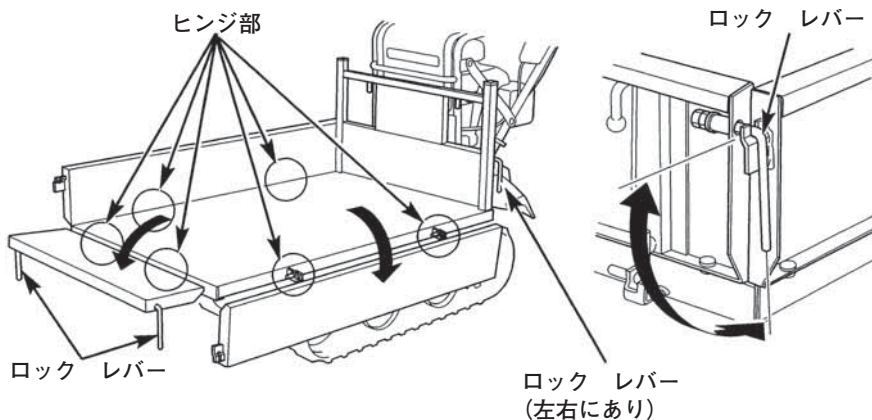
荷台あおり板は下げることができるほか、水平位置での固定もできます。

通常は、あおり板を上げた状態で使用してください。



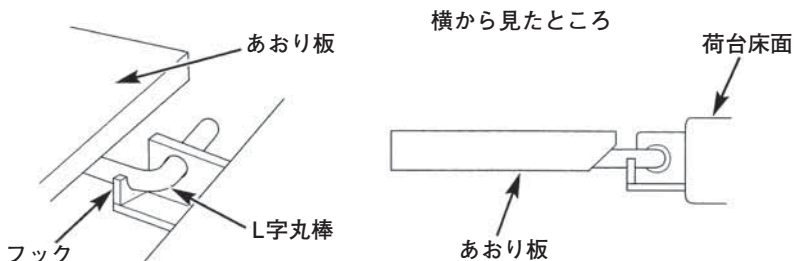
## 荷台あおり板の取扱い（三方開き荷台タイプ）

1. 荷台あおり板ロック レバーを引き上げると上部のロックが外れあおり板を下側に開くことができます。

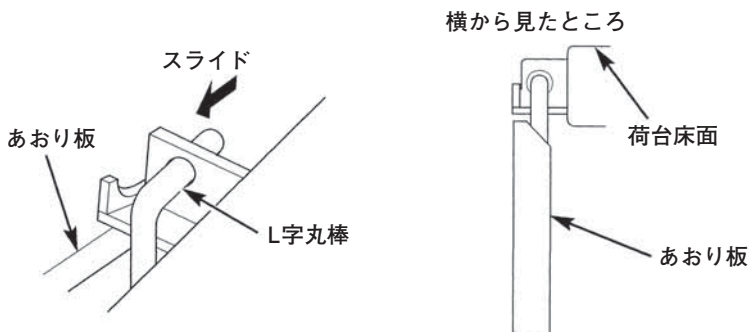


2. ヒンジ部のフックとL字丸棒の位置関係により、あおり板の状態を変えます。

- 荷台あおり板を水平状態にするときは、ヒンジ部のフックにL字丸棒をかけます。



- 荷台あおり板を下げた状態にするときは、L字丸棒をスライドさせヒンジ部のフックから外します。



### ⚠ 警告

本機の転倒によるけがや荷物の落下によるけがを防止するために次の指示に従ってください。

- 急傾斜地ではあおり板を水平にして使用しないでください。
- あおり板を水平にして積載するときは、荷物は軽量物に限ってください。
- あおり板を上げて使用するときには4カ所のロックレバーを確実にロックしてください。

## 積載のしかた

本機は平地または15度以下の傾斜地で使用してください。

キャリアとして使用する場合

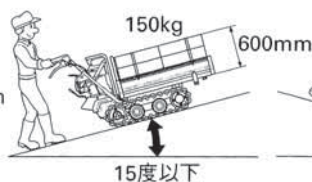
### [HP350]

平地

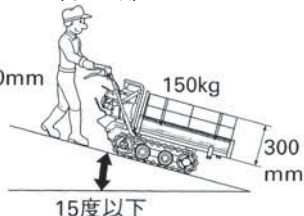


- 農用コンテナ最大積載量  
1段積み 5個

傾斜地15度以下  
(登り坂)



傾斜地15度以下  
(下り坂)

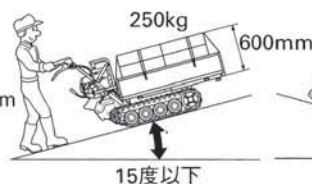


### [HP450]

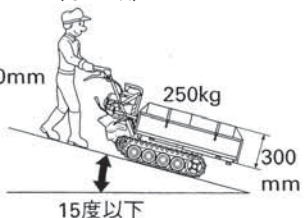
平地



傾斜地15度以下  
(登り坂)



傾斜地15度以下  
(下り坂)



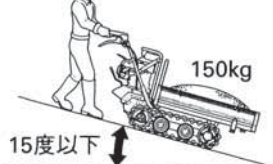
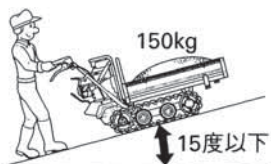
## ホッパとして使用する場合

### [HP350]

平地

傾斜地15度以下  
(登り坂)

傾斜地15度以下  
(下り坂)



### [HP450]

平地

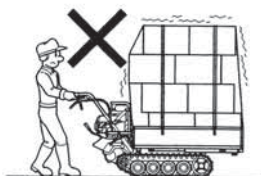
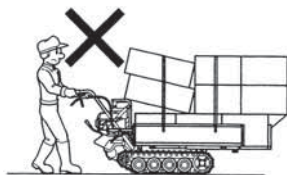
傾斜地15度以下  
(登り坂)

傾斜地15度以下  
(下り坂)



### ⚠ 注意

- 荷台からはみ出すような荷物の積載はしないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したりして運転操作に支障をきたします。
- 荷物は高く積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなります。転倒などしやすくなりけがをすることがあります。





---

## 傾斜地での使いかた

### 走行について

1. 必ず1速で走行してください。
2. 足場が悪い場合は、車速を下げて足元に十分注意して作業を行ってください。
3. 降坂時はスロットル レバーを "**低速**" の位置にして、エンジンブレーキを使用してください。
4. 傾斜地での発進、停止は転倒に十分注意してください。
5. 急傾斜地での旋回および変速は行なわないでください。

### 積載について

1. 傾斜地では荷物の安定性が悪くなりますので、ロープなどでしっかり固定してください。
2. 路面の状態により本機の安定性が悪くなりますので、荷物の量は控え目にしてください。
3. 傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、荷物の高さは控え目にしてください。

## キャリア ロック解除レバーの使いかた (三方開き荷台、ボックス荷台タイプ)

### [HP350 (BJP / CJEP タイプ)]

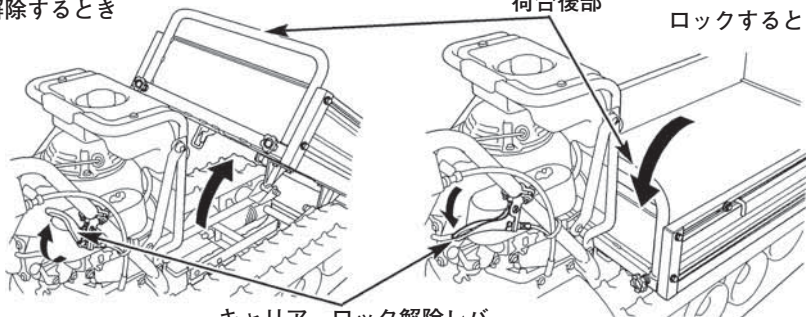
解除するとき …… レバーを握り荷台後部を持ち上げます。

ロックするとき …… 荷台後部のみ持ってロックするまで下げます。

解除するとき

荷台後部

ロックするとき



キャリア ロック解除レバー

### [HP450 (CJEP タイプ)]

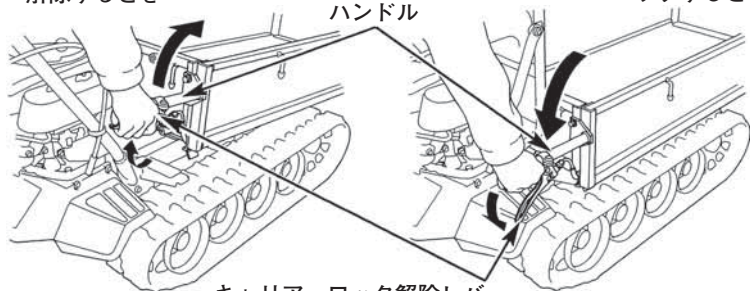
解除するとき …… レバーを握りハンドルを持ち上げます。

ロックするとき …… ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。

解除するとき

ハンドル

ロックするとき



キャリア ロック解除レバー

## ⚠ 警告

本機を動かす前に、荷台がロックされていることを確認してください。ロックが不完全だと降坂時に荷台が持ち上がります。荷物を落したり、けがをするおそれがあります。

## キャリア ロック バーの取扱い (三方開き荷台、ボックス荷台タイプ)

点検、調整や清掃するときには使用してください。キャリア ロック バーは荷台を持ち上げた状態で保持します。

### ⚠ 警告

キャリア ロック バーは確実に取付けてください。荷台がさがり、けがをするおそれがあります。

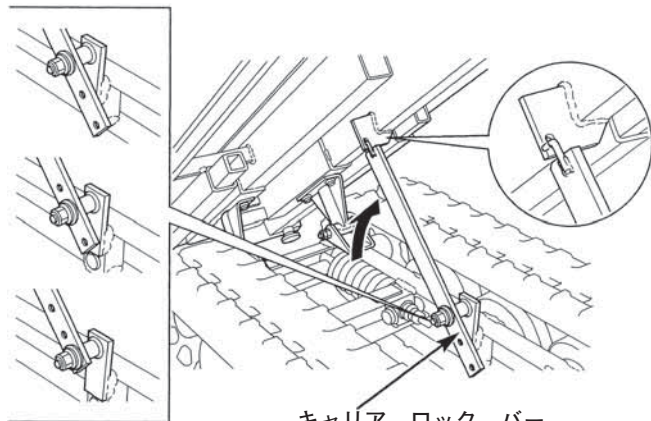
荷台を持ち上げた状態で作業を行うときは、キャリア ロック バーを下図のように用いて作業を行ってください。

#### 取付穴位置

[HP450  
(CJEPタイプ)]

[HP350  
(CJEPタイプ)]

[HP350  
(BJPタイプ)]



キャリア ロック バー

### ⚠ 注意

風にあおられてキャリア ロック バーが外れることがあります。特に風の強いときはご注意ください。

#### 取扱いのポイント

荷台を下げるときは、必ずキャリア ロック バーを外してください。

# 定期点検を行いましょ

## 定期点検整備項目

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

点検整備項目	点検時期 (注1)	作業前点検	1ヶ月目 または 初回20時間 運転目	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	1年毎 または 300時間 運転毎
エンジン オイル	点検、補給	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○ (注2)		
変速機オイル	点検					○
本機まわりの点検		○				
レバー類の作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類の点検		○				
エンジンの作動、停止	点検	○				
点火プラグ	点検、調整				○	
	交換					○
スロットル ケーブル	調整					○ (注3)
走行クラッチ ケーブル	調整		○		○	
サイド クラッチ ケーブル	調整		○		○	
ブレーキ ケーブル	調整		○		○	
キャリア ロック ケーブル	調整				○	
クローラ	点検	○			○	
	調整		○			○
ブレーキ シュー	点検				○	
	交換					○ (注3)
クラッチ シュー	交換					○ (注3)
リダクション オイル	点検					○
各部グリス塗布						○
アイドル スピード	点検、調整					○ (注3)
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○ (注3)
燃焼室	清掃	250時間運転毎 (注3) (注4)				
燃料タンク、フィルタ	清掃					○ (注3)
燃料チューブ	点検	2年毎 (必要なら交換) (注3)				

(注1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(注2) ホコリの多い所で使用した場合、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

(注3) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店又はサービス店で実施していただく項目です。

(注4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

## ⚠ 警告

点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを " 停止 " 位置にして点火プラグキャップをプラグから取外してから行ってください。

誤ってエンジンが始動すると本機が動き出す場合があります。

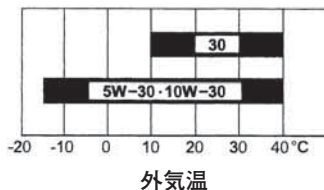
## エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

**交換時期** 初回：1ヶ月目または20時間運転目  
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》 4サイクル ガソリン エンジン オイル  
Honda純正ウルトラU汎用 (SAE 10W-30)  
または API分類 SE 級以上の SAE 10W-30 エンジン  
オイルをご使用ください。

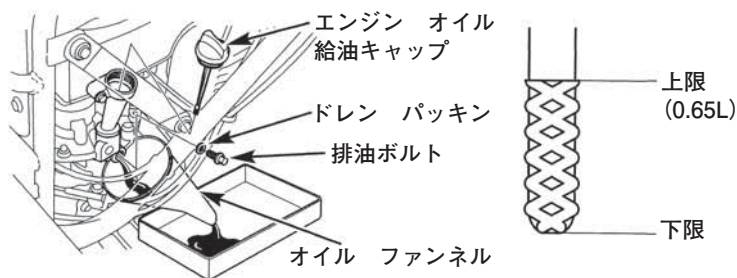
エンジン オイルは外気温に応じた粘度  
のものを表にもとづきお使いください。



《規定量》 0.65L

## 交換のしかた

1. エンジン オイル給油キャップを外し、オイル排油ボルトをゆるめてください。  
オイル受けをセットしてからオイル ファンネルを図のようにセットしてください。
2. 排油ボルトを外しオイルを抜いてください。
3. 排油ボルトのドレン パッキンを新しい部品と交換してください。  
再使用するとオイル漏れの原因になります。  
オイルが抜けたら排油ボルトを確実に締付けてください。
4. 新しいエンジン オイルを上限まで注入してください。
5. 注入後キャップを確実に締付けてください。



### ⚠ 注意

エンジン停止直後はオイルの油温、エンジン、マフラなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。  
やけどをするおそれがあります。

### 取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ず本機を水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。  
不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

## 点火プラグの点検・調整・交換

### ⚠注意

エンジン停止直後は点火プラグ、エンジン、マフラなどが熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。

やけどをするおそれがあります。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

### 点検時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

### 清掃のしかた

1. 点火プラグ キャップを取外します。
  2. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
  3. 点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
- プラグ クリーナが無いときはワイヤブラシで汚れを落としてください。

### 調整

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

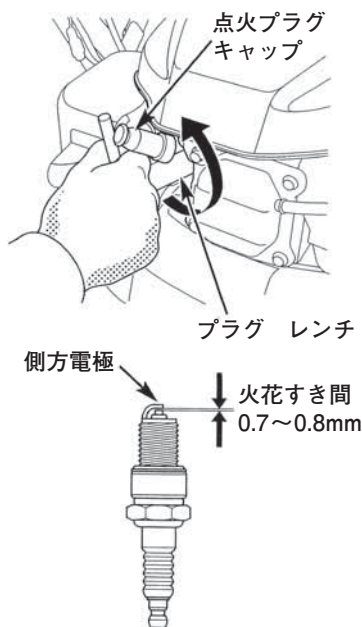
火花すき間：0.7～0.8mm

### 標準プラグ

BPR4ES (NGK)

### 取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締め付けてください。
- 点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。



## エア クリーナの清掃・交換

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に点検しましょう。

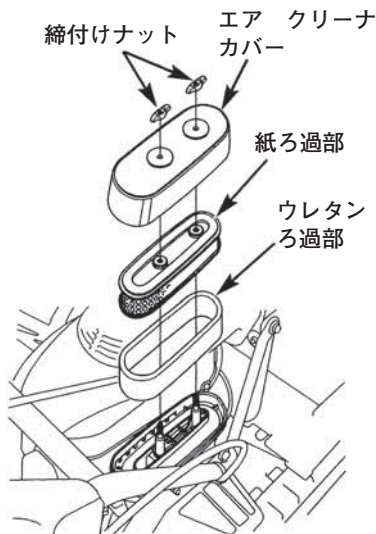
### 清掃時期

3ヶ月毎または50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間運転毎。

### 清掃のしかた

1. 締付けナットを外し、エア クリーナ カバーを取外します。
2. ウレタンろ過部は洗剤または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。次にオイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。  
汚れがひどい場合は交換してください。



### ⚠ 警告

エア クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。  
洗剤は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

### 取扱いのポイント

- エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付け方が悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。



## クローラの調整

### 警告

点検・調整は平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを " 停止 " 位置にして点火プラグキャップを点火プラグから取外してから行ってください。  
誤ってエンジンが始動すると本機が動き出しクローラに巻き込まれけがをするおそれがあります。

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。  
クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

### 点検時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

### 調整時期

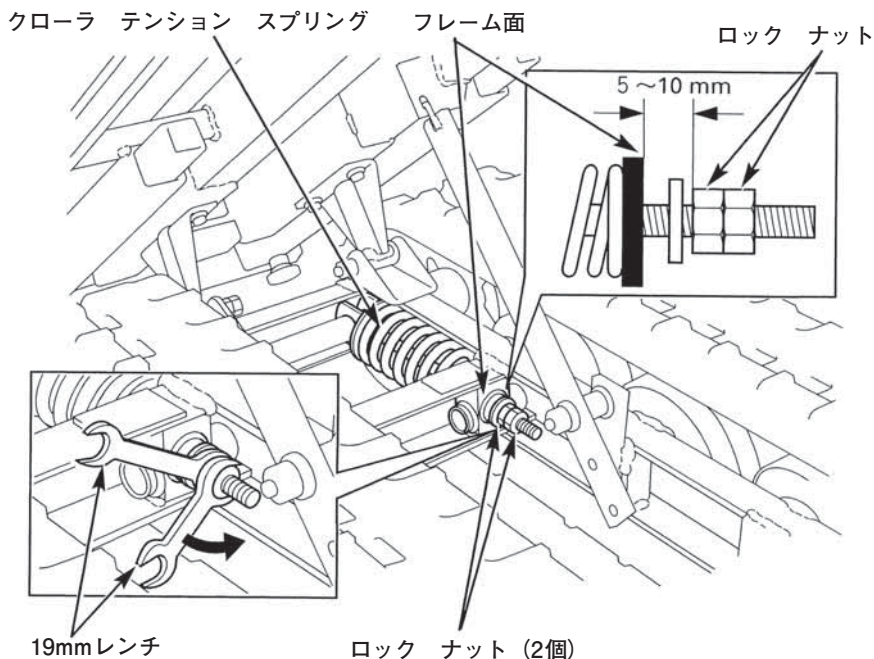
初回：1ヶ月目または20時間運転目、  
以後：1年毎または300時間運転毎

## 調整のしかた

1. 荷台を持ち上げてください。
2. 持ち上げた荷台が落ちないようにキャリア ロック バーを確実に取付けてください。(49頁参照)
3. 外側のロック ナットをゆるめ、次に内側のロック ナットをフレーム面とすき間ができるまでゆるめてください。
4. 内側のロック ナットとフレーム面の寸法が下記寸法になるようにロック ナットを調整してください。

**規定寸法：5～10mm**

5. もう1個のロック ナットで確実に締付けてください。締付けは19mmレンチ2本を使用してください。



## 走行クラッチ ケーブルの調整

走行クラッチ ケーブルの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。

### 調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転日、

以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

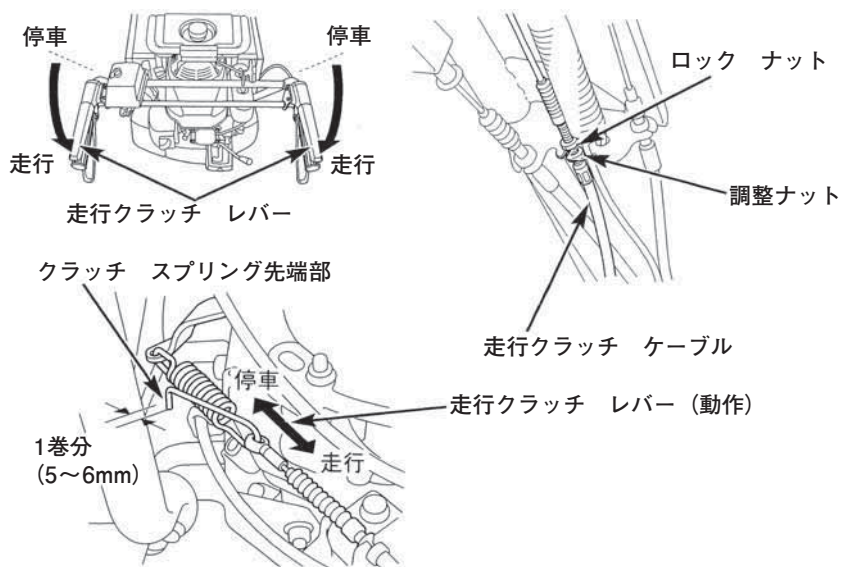
### 調整のしかた

1. 走行クラッチ レバーを放し " 停車 " の位置からレバーを握り " 走行 " の位置にしたとき、クラッチ スプリングの伸び量が下記寸法になるように調整します。

伸び量のめやすはクラッチ スプリング先端がクラッチ スプリング1巻き分移動する程度です。

**伸び量：5～6mm**

調整はロック ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。



2. 調整後、ロック ナットを確実に締付けてください。

## ブレーキ ケーブルの調整

ブレーキ ケーブルの調整が完全でないと、ブレーキの効きが悪くなります。

### 調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転日、

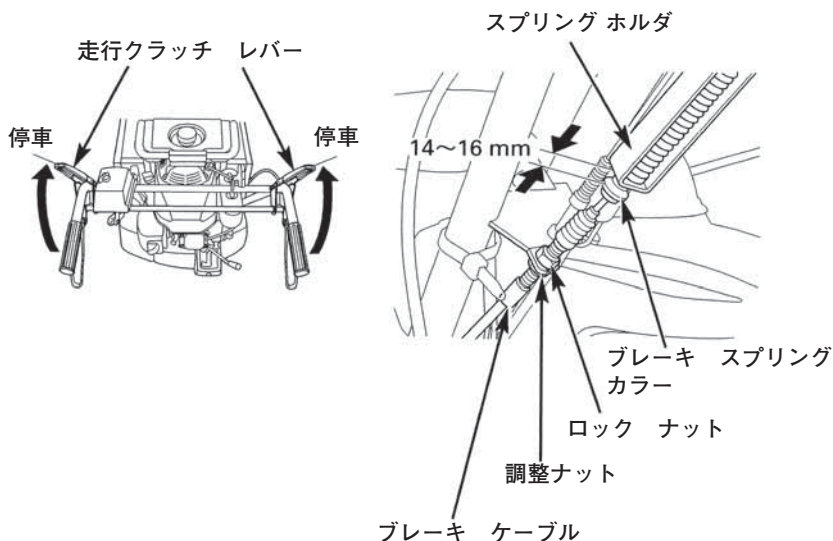
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

### 調整のしかた

1. 走行クラッチ レバーを放した状態 (" 停車 " ……ブレーキが効いている状態) でブレーキ スプリング カラーがスプリング ホルダから下記寸法になっているか確認してください。

**規定寸法：14～16mm**

2. 調整は、走行クラッチ レバーを放した状態で調整ナットをゆるめ規定寸法になるようにしてください。
3. 調整後、ロック ナットを確実に締付けてください。



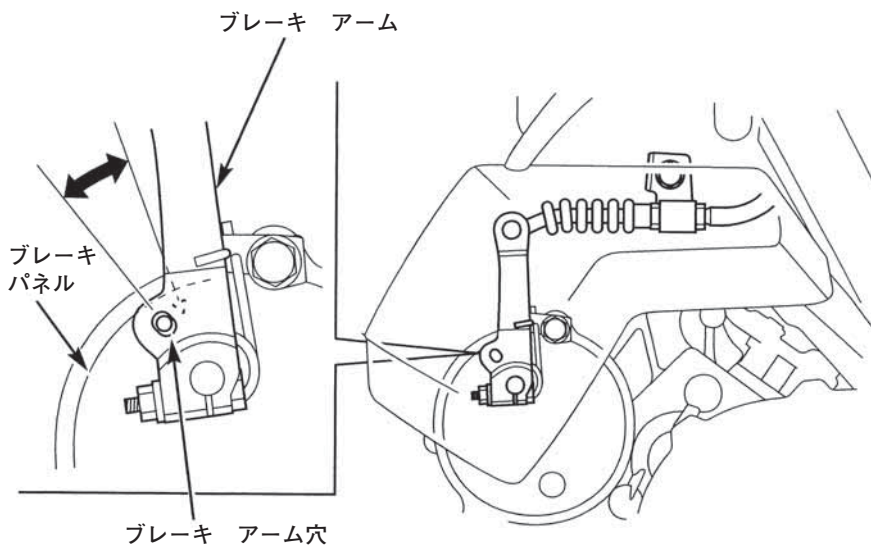
## ブレーキ シューの点検

ブレーキ ケーブルの調整後、必ずブレーキ シューの点検を行ってください。

### 点検時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

走行クラッチ レバーを放した状態 (" 停車 ") でブレーキ アームの穴がブレーキ パネルの○マークから▽マークの間であれば正常です。もし▽マークに近いときにはお買いあげ販売店へお申しつけください。



## サイド クラッチ ケーブルの調整

サイド クラッチ ケーブルの調整が完全でないとサイド クラッチの切れが悪くなります。

### 調整時期

初回：1ヶ月目または20時間運転日、  
以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

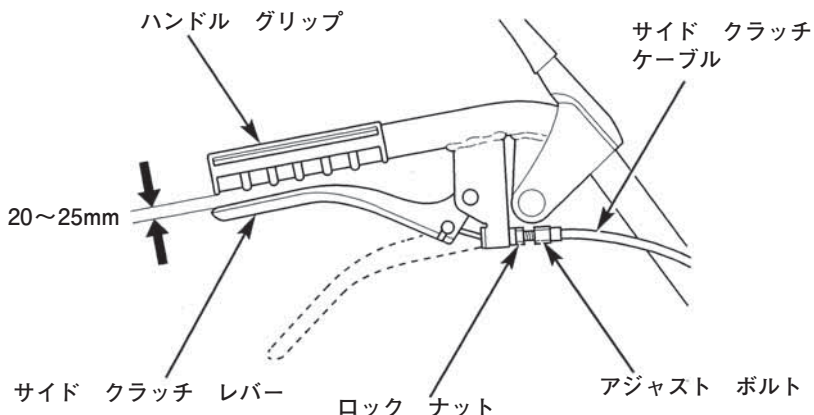
### 調整のしかた

1. 本機を前後にゆすりながら、レバーが深く握れるところを探してください。
2. サイド クラッチ レバーを握った状態でレバー先端とハンドルグリップとのすき間が下記寸法になっているか確認してください。

**規定寸法：20～25mm**

3. 調整は、レバーを握った状態でロック ナットをゆるめアジャスト ボルトで規定の寸法にしてください。
4. 調整後、ロック ナットを確実に締付けてください。

サイド クラッチ ケーブルの調整は左、右同様に行ってください。



# キャリア ロック ケーブルの調整 (三方開き荷台、ボックス荷台タイプ)

## 調整時期

6ヶ月毎または100時間運転毎

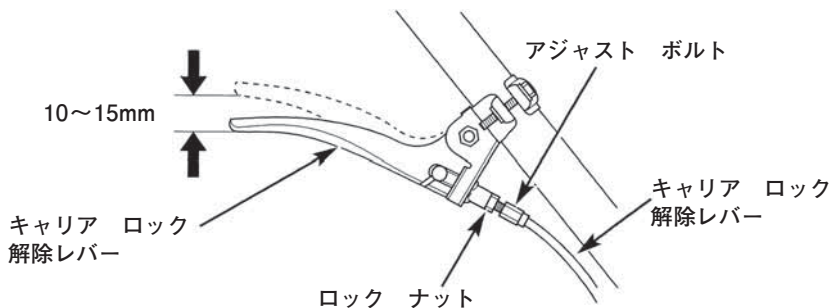
## 調整のしかた

1. 荷台をロックした状態でキャリア ロック解除レバーの先端の遊びが下記寸法になっているか確認してください。

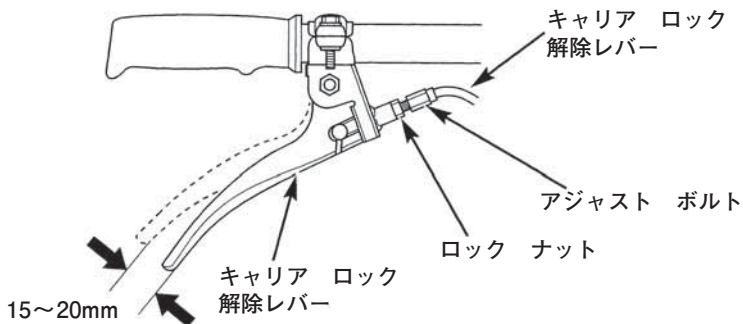
**遊び：10～15mm (HP350)、15～20mm (HP450)**

2. 調整は、ロック ナットをゆるめアジャスト ボルトで規定の寸法になるようにしてください。
3. 調整後、ロック ナットを確実に締付けてください。

[HP350]



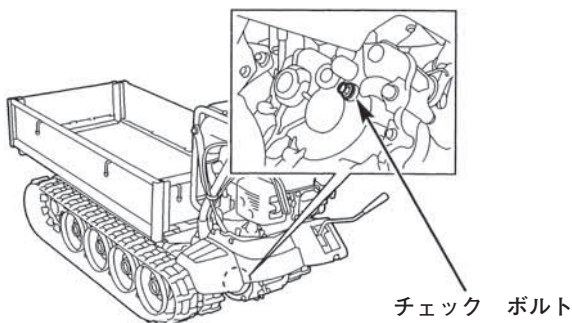
[HP450]



## 変速機オイルの点検

### 点検時期

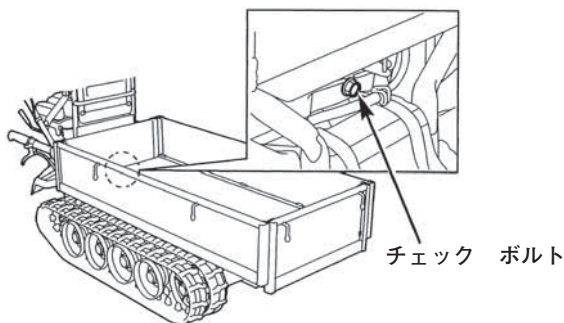
1年毎または300時間運転毎  
チェック ボルトを外して、オイルが入っていることを確認してください。もしボルト穴の下端面までオイルがない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。



## リダクション オイルの点検

### 点検時期

1年毎または300時間運転毎  
荷台を持ち上げて、キャリア ロック バーを確実に取付けてください。チェック ボルトを外して、オイルが入っていることを確認してください。もしボルト穴の下端面までオイルがない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。



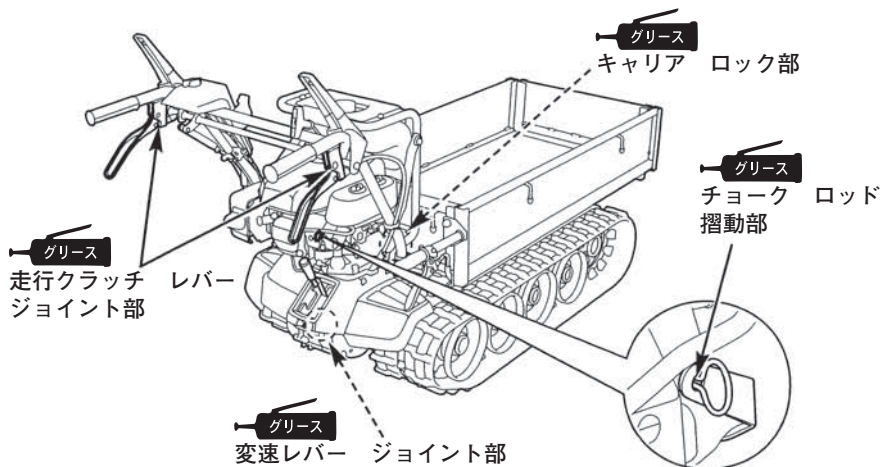


## 各部の給油について

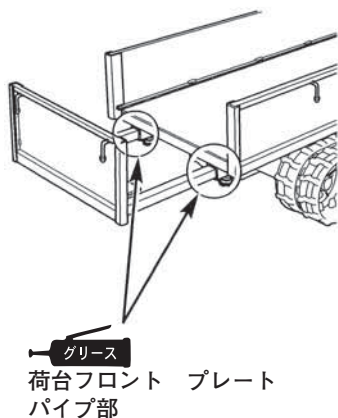
本機を常に快適に使用するため、下記個所に給油してください。

### 給油時期

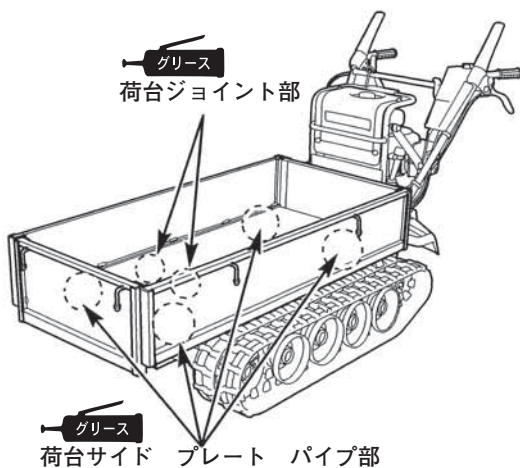
1年毎または300時間運転毎



(パイプ/ボックス荷台タイプ)



(ボックス荷台タイプ)

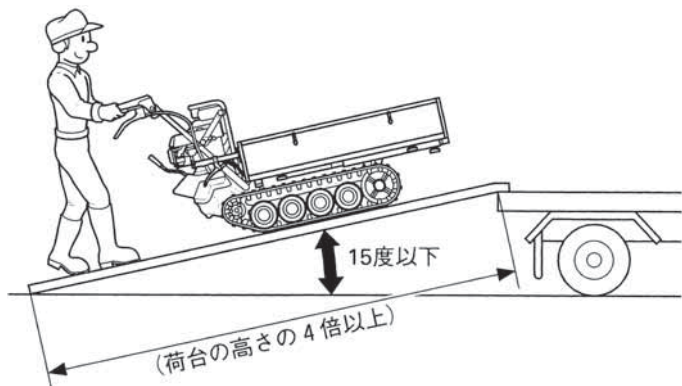


# トラック（車）への積み降ろしのしかた

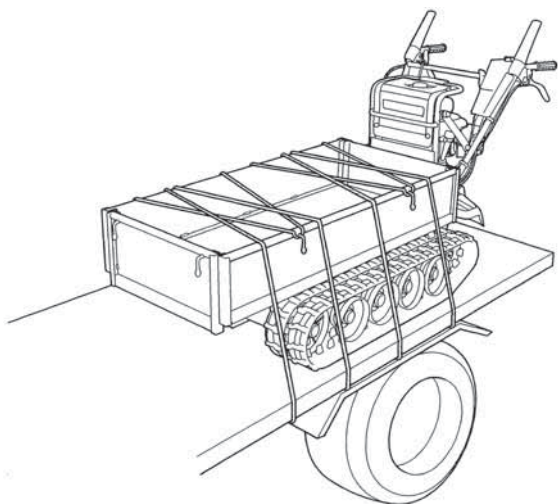
## ⚠警告

トラックへの積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりけがをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たすトラックを使用してください。
2. トラックへの積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行ってください。
3. アユミ板は耐荷重が0.5t以上で、本機の傾斜角度が15度以下になる長さで、幅30cm以上のもので、滑り止めや外れ防止フックのついた丈夫なアユミ板を使用してください。（目安としてトラックの荷台の高さの4倍以上）



4. アユミ板はトラックに対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. トラックにアユミ板を平行に並べ、本機のクローラと一直線であることを確認してください。
6. 本機に荷物のない状態で、必ず低速で行なってください。  
トラックに積載したら、走行クラッチ レバーを " 停止 " 位置にし、エンジンを止め、燃料コック レバーを " 止 " 位置に合わせ、本機をロープなどで2カ所以上固定してください。



7. トラックから本機を降ろすときは、低速で行ってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

# 長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを必ず行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

## ⚠ 警告

平坦な場所でエンジンを停止させ、エンジンが始動しないようにエンジン スイッチを " 停止 " 位置にして点火プラグ キャップをプラグから取外してから行ってください。

誤ってエンジンが始動すると本機が動き出します。

## ⚠ 注意

エンジン停止直後はエンジン、マフラーなどが非常に熱くなっていますのでエンジンが冷えてから行ってください。

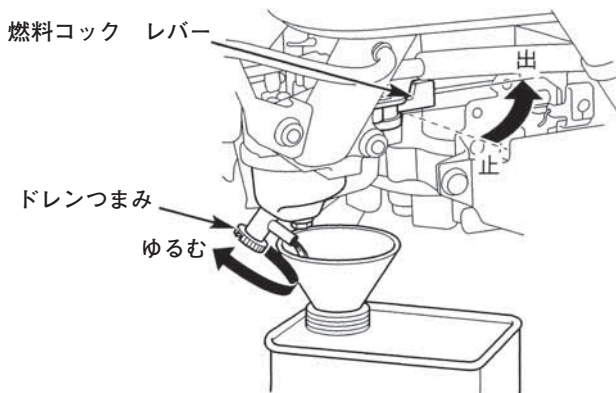
やけどをするおそれがあります。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。
  - 1. 燃料コック レバーを " 出 " の位置にして、ドレンつまみをゆるめて、燃料を適切な容器に受けてください。
  - 2. 完全に燃料が抜けたら、ドレンつまみを確実に締めて燃料コックレバーを " 止 " の位置にしてください。

## ⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。



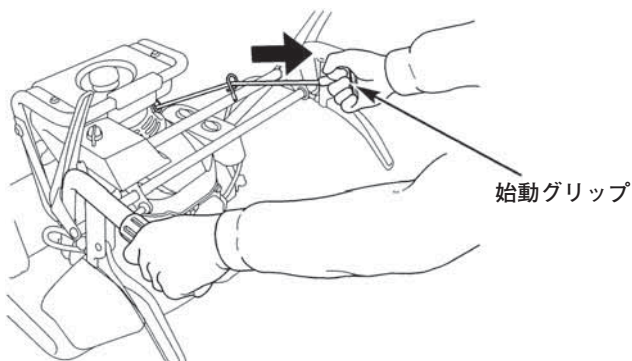
抜き取ったガソリンは、お買い求めになったガソリンスタンドに処理を依頼してください。

2. エア クリーナを清掃してください。(54頁参照)
3. 本機の清掃を行い、各部の締付けを点検してください。また各部の給油を実施してください。(63頁参照)

#### 取扱いのポイント

- 本機を洗うときはエア クリーナのカバー締付け部付近、電装部品、およびキャブレターに水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水がかかると内部に水が侵入し故障の原因になります。
- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

4. 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



**⚠ 警告**

本機を格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディカバーなどをかけて格納してください。

エンジンやマフラが熱いときに燃えやすいものが触れると、火災の原因になります。

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確認しましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（28～31頁）
2. 燃料はありますか？（21、22頁）
3. プラグ キャップは確実に取り付けられていますか？（53頁）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（53頁参照）
  - ・ 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう

# 主 要 諸 元

名 称	HP350		
型 式	NACJ		
タ イ プ	BJP	CJP	CJEP
全 長	1,860 mm	1,575 mm	1,720 mm
全 幅	835 mm	635 mm	
全 高	1,015 mm		
乾 燥 質 量 [ 重 量 ]	164 kg	139 kg	150 kg
全 装 備 質 量 [ 重 量 ]	167 kg	142 kg	153 kg
エ ン ジ ン	名 称	GXV160H2	
	形 式	強制空冷、単気筒4ストローク ガソリン、OHV	
	排 気 量	163 cm <sup>3</sup>	
	エンジン最大出力/ 回 転 速 度 (SAE J1349に準拠*)	3.2 kW (4.4 PS) /3,600 rpm	
	アイドリング回転数	2,000 ± 150 rpm	
	無負荷最高回転数	3,200 ± 150 rpm	
	内 径 × 行 程	φ68.0 × 45.0 mm	
	点 火 時 期	上死点前20°	
	点 火 方 式	トランジスタ式、マグネット	
	エンジン オイル容量	0.65 L	
燃 料 タ ン ク 容 量	1.4 L		
点 火 プ ラ グ	BPR4ES (NGK)		
変 速 段 数	前進2段、後進1段		
車 速	前 進 1 速	1.4 km/h	
	前 進 2 速	3.5 km/h	
	後 進 1 速	1.3 km/h	
最大積載量	平 地	350 kg	
	傾 斜 地	150 kg	
リダクション オイル容量	0.8 L		
変 速 機 オ イ ル 容 量	2.0 L		
クローラ (幅×長さ)	160 × 2,040 mm (60P × 34L)		
荷 台 タ イ プ	三方開き	パイプ	アルミ ボックス

\* :ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して、3,600 rpm (エンジン最大出力)で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。

量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

諸元は予告なく変更することがあります。



名	称	HP450
型	式	NADJ
タ	イ	ブ
全	長	1,900 mm
全	幅	635 mm
全	高	1,055 mm
乾燥質量 [重量]		181 kg
全装備質量 [重量]		184 kg
エ ン ジ ン	名	称
	形	式
	排	気
	エンジン最大出力/ 回 転 速 度 (SAE J1349に準拠*)	
	アイドリング回転数	
	無負荷最高回転数	
	内 径 × 行 程	
	点 火 時 期	
	点 火 方 式	
	エンジン オイル容量	
燃 料 タ ン ク 容 量		
点 火 プ ラ グ		
変 速 段 数		
車 速	前 進 1 速	
	前 進 2 速	
	後 進 1 速	
最大積載量	平 地	
	傾 斜 地	
リダクション オイル容量		
変 速 機 オ イ ル 容 量		
クローラ (幅×長さ)		
荷 台 タ イ プ		

\* :ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して、3,600 rpm (エンジン最大出力)で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。  
量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

諸元は予告なく変更することがあります。



Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、  
まず、Hondaの販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センター  
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010  
イフレアイオ

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒361-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 製品名、タイプ名
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

**HONDA**  
The Power of Dreams